

文部科学省

大学における公共獣医事教育推進委託事業

分野1 公衆衛生行政等における全国の実習システムの構築

平成 28 年度事業報告

東京大学大学院 農学生命科学研究科

目次

1. 平成 28 年度 事業概要	P. 1
1.1. 事業の目的	
1.2. 事業の内容	
1.3. 実施体制	
2. 平成 28 年度 実績報告	P. 5
2.1. 実習システムの運営・構築	
2.1.1. 実習の流れ	
2.1.2. 実習プログラムの開発体制	
2.1.3. 事前講義の開発	
2.1.4. ホームページの改修	
2.2. 実習プログラムの実施	
2.2.1. 実習プログラムの開発・実施	
2.2.2. 講義プログラムの収録	
2.2.3. 広報活動	
2.2.4. 実習受入機関への消耗品の提供	
2.2.5. 実習の事後評価	
2.2.5.1. 追加アンケートの結果	
2.2.5.2. 実習前アンケートの結果	
2.2.5.3. 実習後アンケート（平成 28 年夏期および春期）の結果	
3. 平成 28 年度 関連会議	P. 43
3.1. 第 1 回コーディネータ会議	
3.2. 第 2 回コーディネータ会議	
3.3. シンポジウムの開催	
3.4. 第 105 回全国獣医系大学関係代表者協議会への報告	
3.5. 第 106 回全国獣医系大学関係代表者協議会への報告	
3.6. 全国公衆衛生獣医師協議会への報告	

4.	平成 26 年度から平成 28 年度の推移	P. 59
4.1.	広報活動	
4.2.	実習協力機関数の推移	
4.3.	実習参加学生数の推移	
5.	今後の課題	P. 71
5.1.	実習協力機関拡充の必要性	
5.2.	実習システムの更なる改善の必要性	
5.2.1.	学生からの意見	
5.2.2.	実習担当窓口からの意見	
5.2.3.	実習協力機関からの意見	
5.2.4.	募集要項への記載内容における注意点	
5.2.5.	その他	
5.3.	学生の認知度向上の必要性	
5.3.1.	S N S を利用したネットワーク構築	
5.3.2.	チラシ・ポスター等による積極的周知活動	
5.4.	学生の進路追跡調査の必要性	

参考資料

1.	追加アンケートの設問	P. 81
2.	実習前アンケートの設問	P. 83
3.	実習後アンケート（記述式）回答一覧	P. 85
4.	実習機関アンケート（記述式）回答一覧	P. 127
5.	VPcamp 手引き 受入機関用 (2016.9.ver.)	P. 135
6.	実習修了証（実習終了後に学生へ配布する証明書）	P. 175

1. 平成 28 年度 事業概要

1.1. 事業の目的 (平成 28 年度業務計画書から抜粋)

社会のグローバル化の進展に伴い、国境を超える人の交流や物資の取引が進展するにつれ、国境を超える家畜伝染病、人獣共通感染症等の進入リスクが高まり、これらの感染症の防疫を担う獣医師を養成するための獣医学教育の強化はますます重要な課題となっている。特に 21 世紀に入り、国内における口蹄疫、鳥インフルエンザ、牛海綿状脳症 (BSE) などの発生を背景に、現場の最前線で感染症の蔓延防止対策や進入防止対策に従事する公務員獣医師に対する社会的ニーズが高まっている。

このようなニーズに応えるため、国および地方公共団体などが実施する公共獣医事のうち公衆衛生分野を担う検疫所、全国の都道府県の保健所、と畜場、食鳥処理場、動物愛護センター、衛生研究所などの協力を得て、現場における公衆衛生分野の実務経験の幅広い獲得を柱とした実践的な実習システムを構築する。これにより、公共獣医事を担う獣医師の養成に資する。

1.2. 事業の内容

公衆衛生に携わる知識・技術を獲得するため、公共獣医事を担う保健所、と畜場、食鳥処理場、動物愛護センター、衛生研究所などにおいて食品安全・感染症防疫・動物福祉の分野の体系的な実務経験ができる実習システムを構築し、同システムの下、実習プログラムの開発・実施を行う。実習システムの構築にあたっては、実習協力自治体や機関の開拓、実習内容の策定、実習の手引きの作成、実習機関等の情報提供など、全国の獣医学生が広く利用できるようなシステムとなるように努める。

実習プログラムについては、実習内容は単に見学や講義にとどまらず、ラボワーク又はフィールドワークを伴う高度で実践的な含めたものとなるよう努める。

1.3. 実施体制

平成 28 年度には新たに 1 校（日本獣医生命科学大学）が加わり計 13 校が協力校となった*。これらの協力校の担当者（コーディネータ）の一部には実習プログラムの開発に協力していただくとともに（図 2-1）、コーディネータ会議やメール会議を通じて、実習システムの構築・運営に対して助言をいただいた。

（*平成 26 年度は 7 校、平成 27 年度では 12 校が協力校であった。）

表 1 - 1 コーディネータ協力校および外部専門機関

担当	大学など
代表校	東京大学
協力校	獣医系 13 校（北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学、大阪府立大学、鳥取大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学、日本大学、北里大学、日本獣医生命科学大学）
外部専門機関	全国公衆衛生獣医師協議会会長（東京都福祉保険局健康安全部食品危機管理担当課長）

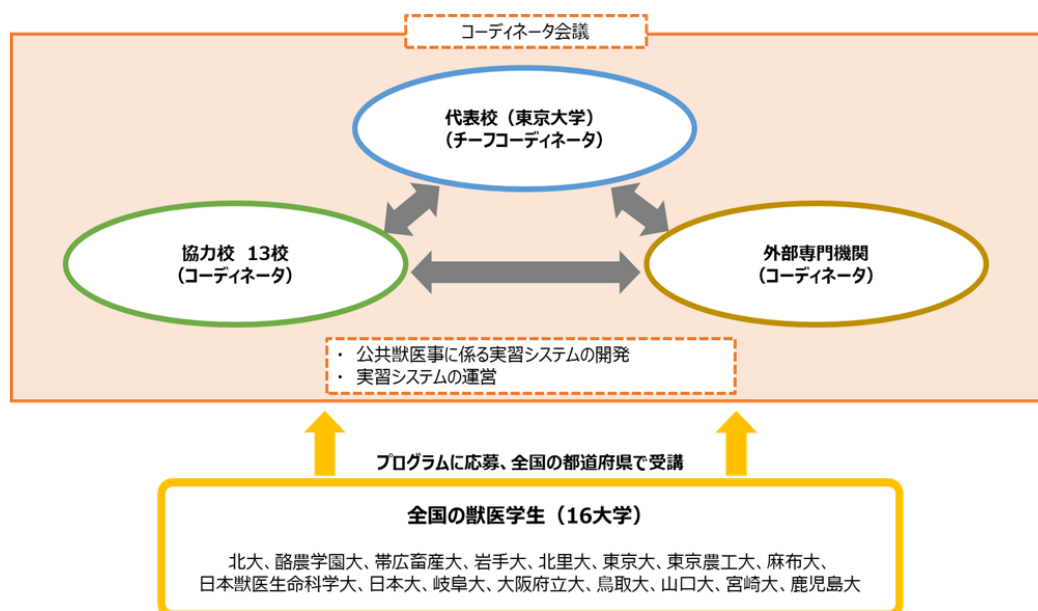


表1-2 コーディネーターリスト

担当	氏名	所属	事務局
チーフコーディネータ	杉浦勝明	東京大学大学院 農学国際専攻	○
コーディネータ	刈和宏明	北海道大学 獣医学部	
コーディネータ	廣井豊子	帯広畜産大学 獣医学科	
コーディネータ	佐藤繁	岩手大学 共同獣医学科	
コーディネータ	村上賢二	岩手大学 共同獣医学科	
コーディネータ	鎌田洋一	岩手大学 共同獣医学科	
コーディネータ	尾崎博	東京大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	望月学	東京大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	堀正敏	東京大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	芳賀猛	東京大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	山田章雄	東京大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	綱嶋るみ	東京大学大学院 農学国際専攻	○
コーディネータ	白井淳資	東京農工大学/附属国際家畜感染症防疫研究教育センター	
コーディネータ	藤川浩	東京農工大学 共同獣医学科	
コーディネータ	竹原一明	東京農工大学 共同獣医学科	
コーディネータ	北川均	岐阜大学 共同獣医学科	
コーディネータ	笹井和美	大阪府立大学大学院 獣医学専攻	
コーディネータ	伊藤壽啓	鳥取大学 共同獣医学科	
コーディネータ	豊福肇	山口大学 共同獣医学科	
コーディネータ	中馬猛久	鹿児島大学 共同獣医学部	
コーディネータ	後藤義孝	宮崎大学 獣医学科	
コーディネータ	上野俊治	北里大学 獣医学部	
コーディネータ	壁谷英則	日本大学 生物資源科学部獣医学科	
コーディネータ	落合由嗣	日本獣医生命科学大学 獣医学科	
外部専門機関	中村重信	全国公衆衛生獣医師協議会会長 (東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長)	
事務補佐員	舘千恵	東京大学大学院 農学国際専攻	○

2. 平成 28 年度 実績報告

2.1. 実習システムの運営・構築

平成 28 年度は本事業の最終年度として、26、27 年度に開発した実習システムのさらなる改善（獣医系 16 大学への本事業の周知、本システムを通じた負担軽減、使いやすいシステムへの改善、本システムを持続可能なものにするための検討と調整）を図るとともに、実習のさらなる全国展開と内容の充実を図り、公務員獣医師の進路を希望する学生すべてに実習プログラムを提供することを目指した。

2.1.1. 実習の流れ

平成 28 年度は、平成 26、27 年度に引き続き、実習プログラム開発から学生の応募、実習終了に至るまで、以下の流れで行った（図 2-1）。

- ① 受入機関との提携、プログラム開発
- ② 事務局からの告知・宣伝・募集
- ③ 学生からの応募
- ④ 事務局による選考・学生への合格通知
- ⑤ 学生から事務局への緊急連絡先当の提出
- ⑥ 参加学生による事前講義の受講
- ⑦ 学生による実習プログラムへの参加
- ⑧ 実習受入機関による学生の評価
- ⑨ 事務局から学生への評価書・修了証の送付

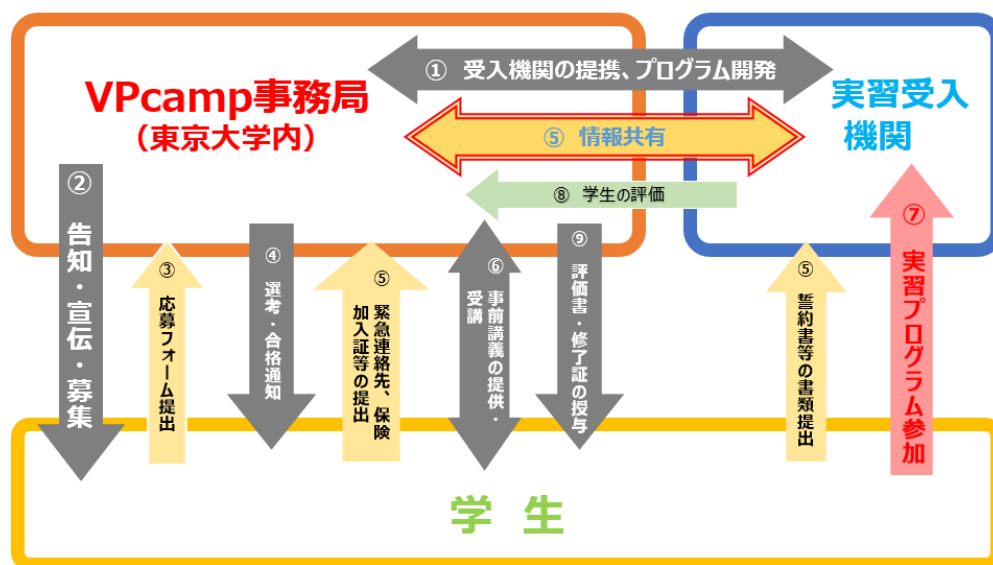


図 2 - 1 実習の流れ

2.1.2. 実習プログラムの開発体制

平成 26、27 年度に引き続き、コーディネータごとに担当する都道府県を割り当て（表 2-1）、実習受入機関の開拓、実習プログラムの開発を行った。プログラムの開発に際しては「実習実施機関の手引き」（参考資料 5 P.135～）を用いて自治体及び国等の機関に協力を依頼した。実習プログラムの開発にあたって、実習内容が単に見学や講義にとどまらず、ラボワーク又はフィールドワークを伴う高度で実践的な含めたものとなるよう努めた。

■表 2 - 1 各コーディネータの担当都道府県

コーディネータ	担当都道府県
北海道大学	北海道及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
帯広畜産大学	担当なし
岩手大学	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島各県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
東京大学	栃木、群馬、埼玉、東京、新潟、長野、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、香川、愛媛、沖縄各都県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体ならびに国などの機関
東京農工大学	茨城、千葉、神奈川、山梨、静岡の県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
岐阜大学	富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重各県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
鳥取大学	鳥取、岡山、兵庫、島根各県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
山口大学	広島、山口、徳島、福岡、高知各県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
宮崎大学	佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎各県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
鹿児島大学	鹿児島県及び表 7 の政令指定都市・中核都市・特例市の自治体
大阪府立大学、北里大学、 日本大学、日本獣医生命科学大学	担当なし

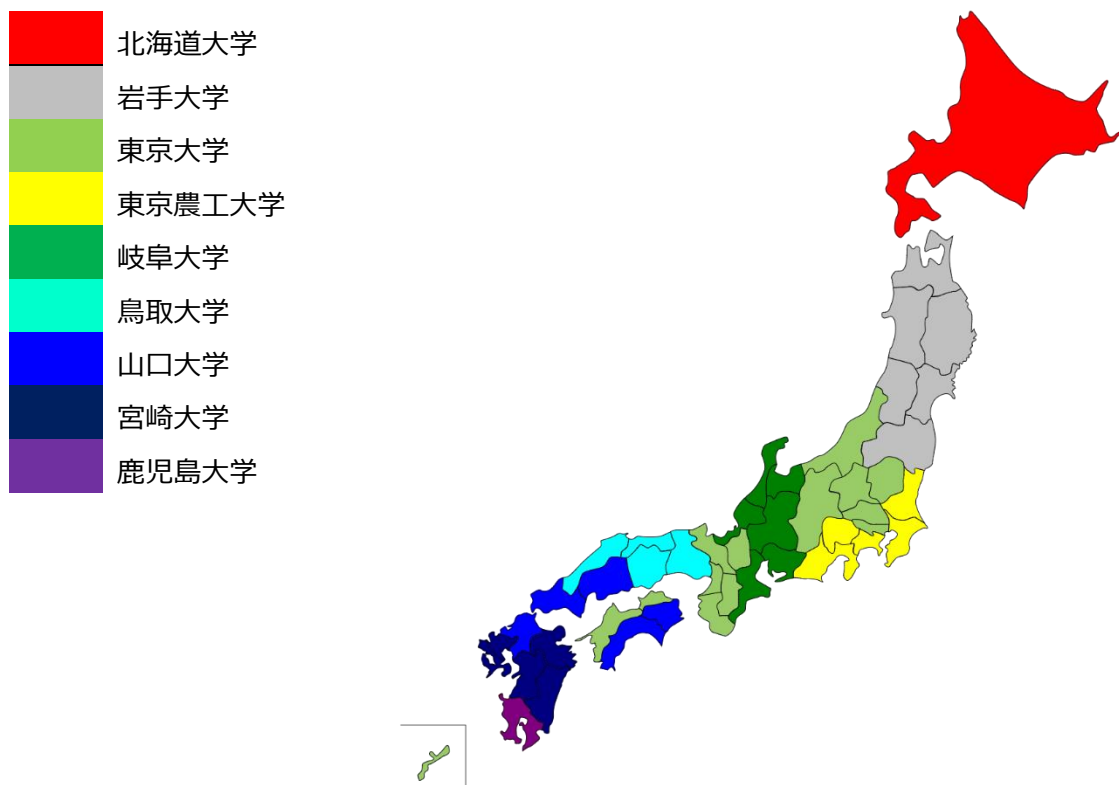


図 2 - 2 各コーディネータの担当都道府県

2.1.3. 事前講義の開発

平成 26、27 年度に引き続き、実習現場における実習効果を向上させることを目的として、学生が実習へ参加する前に視聴する「事前講義」の収録配信を行った。コーディネータ会議、自治体の意見などを踏まえ、講義プログラム（食品衛生行政、人獣共通感染症対策、飼料安全行政、関係法規、獣医師倫理、動物福祉、環境衛生、野生動物保護など）の更なる開発・更新を行った。

2.1.4. ホームページの改修

平成 26 年度に再構築したホームページを、平成 27 年度にはメニュー表示の操作性を簡便にした（グローバルメニュー表示の導入）。また、実習先の検索方法を実習内容や場所から検索できるようにした他、過去の実習実施自治体の検索、参加学生のための手引書（VPcamp Book）のダウンロード、学生日誌フォーマットのダウンロード、受入れ機関向け手引書のダウンロード、本事業の実績などの表示をわかり易く配置した。

平成 28 年度は平成 27 年度までに構築したホームページを使用しつつ、WEB 業者を

介さずに情報の登録・修正・削除を行うための機能を、ホームページ継続使用のために追加した。また、ウイルス対策も強化した。実習先の検索方法は「場所から探す」方法と「実習内容から探す」方法の2通りを設け、実習期間と実習実施機関に合わせて適宜更新した(図2-3)。学生ための手引書(VPcamp Book)のダウンロード、学生日誌フォーマットのダウンロード、実習参加決定後から実習後までに行うべき項目が記載された実習チェックリストのダウンロードを1つのページ内にまとめて掲載し、学生が入手し易いように配置した。また、実習の参加が決定した学生が提出するべき書類、回答するアンケート等についても1つのページにまとめて記載し、学生が順を追って作業を行えるように配慮した。自治体の実習後に行う学生の個別評価については、自治体担当者がホームページからフォーマット(個別評価シート(エクセル形式))をダウンロードし、事務局へ送付する形態とした。

実習内容からVPcampを探す

● 体験実習・帯同実習 ● 講義・見学

政令指定都市・中核市							
	VPcamp開催時期	本庁/保健所	衛生研究関連施設	食肉衛生検査所と畜場食肉処理場	動物愛護関連施設	家畜保健衛生所	その他/備考
郡山市	2/13~2/17 2/20~2/24 2/27~3/3 3/6~3/10 3/13~3/17 のいずれか5日間	●		●			
越前市	3/13~3/17の5日間	●		●	●		
八王子市	2/15~2/21の5日間	●			●		
新潟市	2/27~3/3の5日間	●	●	●	●		
豊田市	2/20~2/24の5日間	●	●	●	●		
松岡市	2/14~2/16の3日間	●		●	●		松岡市立動物園

場所からVPcampを探す

北海道地方

【政令指定都市・中核市】 旭川市 札幌市

【都道府県】 北海道

【国などの機関】 なし

東北地方

【政令指定都市・中核市】 郡山市

【都道府県】 青森 岩手 秋田 宮城 山形 福島

【国などの機関】 なし

関東地方

【政令指定都市・中核市】 越谷市 飯橋市 千代市 八王子市

【都道府県】 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川

【国などの機関】 国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所
日本農獣協賛獣医学会(JASV)
動物検疫所 成田支所
動物衛生研究部門

図2-3 ホームページの实習先検索ページ

2.2. 実習プログラムの実施

平成 28 年度は実習プログラムのさらなる全国展開と内容の充実を図り、公務員獣医師の進路を希望する学生全てに実習システムを提供することを目指し、実習プログラム（国などの機関のほか、都道府県、政令指定都市および中核市における保健所、と畜場、食鳥処理場、動物愛護管理センター、衛生研究所、家畜保健衛生所・動物園などを受入機関とする）の更なる開発・拡充・実施を行った。

平成 28 年度の参加学生数については、当初目標を 200 名と設定したが、最終的に募集人数 78 名、応募人数 85 名、参加人数 57 名にとどまった。

表 2 - 2 平成 28 年度年間スケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
VPcamp スケジュール			募集	募集 実施	実施	実施			募集	募集	実施	実施
製作物			パンフ レット						パンフ レット			
配布対象			全学生						1～5 年生			
他 活動	ホームページ改修・更新、Facebook 更新、シンポジウム（3月）											

2.2.1. 実習プログラムの開発・実施

平成 28 年度夏期は、23 府県、19 都市および 9 国等の機関の、合計 51 機関が受け入れ機関となり、6 月中旬から 7 月中旬まで募集を行い（1 次募集 6 月 2 日～12 日、2 次募集 6 月 20 日～6 月 26 日、3 次募集 7 月 4 日～7 月 10 日）、最終的には 8 月上旬から 9 月上旬までに 18 府県、12 都市および 9 国等の機関で実習プログラムを実施した（表 2-3）。各実習プログラムの実施機関、実施期間、募集人数、応募人数、参加人数は表 8 の通りである。府県及び都市主催の実習プログラムは、主に本庁、保健所、食肉衛生検査所・と畜場、食鳥処理場、動物愛護センターで実施されたが、一部の府県では家畜保健衛生所、畜産試験場でも実施された。都市主催の実習プログラムにおいても実習先は同様であったが、一部の都市では動物園や水族館での実習も行われた。府県および都市主催の実習プログラムでは、募集人数 131 名に対し応募者 71 名、最終的な参加学生数は 56 名であり、募集人数に対し、必ずしも十分な応募・参加人数が得られなかった。また、国等の機関（動物検疫所、動物衛生研究所、国立感染症研究所など）の実習プログラムについては、募集 57 名に対し応募者 85 名、最終的な参加学生数は 55 名と高い応募率であった。

平成 28 年度春期には、12 道府県・9 都市・2 国等の機関の合計 23 機関が受け入れ機関となり、12 月下旬から 1 月下旬まで募集を行った（1 次募集 12 月 19 日～1 月 4 日、2 次募集 1 月 12 日～1 月 18 日、3 次募集 1 月 24 日～1 月 29 日）、最終的には 2 月上旬から 3 月下旬までに 10 道府県・8 都市・2 国等の機関で実習プログラムを実施した（表 2-4）。各実習プログラムの実施機関、実施期間、募集人数、応募人数、参加人数は表 9 の通りである。府県及び都市主催の実習プログラムは、主に本庁、保健所、食肉衛生検査所・と畜場、食鳥処理場、動物愛護センターで実施されたが、一部の府県・都市では家畜保健衛生所、畜産試験場でも実施された。また、平成 28 年度春期に新規実習協力機関となった日本養豚開業獣医師協議会（JASV）においては、応募学生の希望する実習地域及び期間を基に実習プログラムを組み立てる方式を試験的に行った。府県及び都市主催の実習プログラムでは、募集人数 63 名に対し応募者 74 名、最終的な参加学生数は 46 名だった。また、国等の機関の実習プログラムについては、募集 15 名に対し応募者 11 名、最終的な参加学生数は 11 名だった。

平成 26 年度は 8 県・2 都市において実習を実施し、平成 27 年度夏期は 13 道府県・3 都市・8 国等の機関、平成 27 年度春期は 8 道府県・2 都市において実習を実施した。

表 2 - 3 平成 28 年度夏期実習プログラム

	自治体名	期間	日数	実習施設						募集人数	応募人数	参加人数
				本庁・保健所	衛生研究 関連施設	食肉衛生 検査所・ と畜場・ 食鳥処理場	動物愛護 関連施設	家畜保健衛 生所	動物園・ その他			
道府県												
1	岩手県	8/22-8/26	5	●	●	●	●	●		3	2	2
2	福島県	9/5-9/9	5	●	●	●				2	0	0
3	千葉県	8/22-8/26	5	●		●	●			2	2	2
4	新潟県【長岡】	8/20-8/24	5	●	●	●	●			2	1	1
	新潟県【新発田】	8/29-9/2	5	●	●	●	●			2	2	2
5	富山県	8/1-5 8/22-26 8/29-9/2 9/5-9 9/12-16 9/26-30	5	●		●		●		10	2	2
6	石川県	8/29-9/2	5	●	●			●		2	2	2
7	福井県	8/29-9/2	5	●	●		●			2	2	2
8	長野県	8/15-8/19	5	●		●	●			5	3	3
9	岐阜県	8/29-9/2	5	●		●	●			5	0	0
10	愛知県【動物】	8/15-8/19	5				●			3	4	3
	愛知県【保健所】	9/5-9/9	5	●		●				2	2	2
11	京都府	8/29-9/2	5	●	●	●	●			3	5	5

12	兵庫県	8/1-5 8/22-26 8/29-9/2	5			●	●			6	1	1
13	奈良県	9/11-9/15	5	●			●			2	0	0
14	鳥取県【家保】	8/29-9/2 9/5-9 9/12-16	5		●			●		4	2	2
	鳥取県【食肉】	8/29-9/2 9/5-9 9/12-16	5			●		●		4	0	0
	鳥取県【衛生】	8/29-9/2 9/5-9 9/12-16	5		●			●		4	1	1
15	岡山県【畜産】	8/16-19 8/30-9/2	4	●				●	●	4	1	1
	岡山県【衛生】	8/1-5 8/22-26	5	●		●	●			4	1	1
16	広島県	8/29-9/2	5			●				2	0	0
17	山口県	9/5-9/9	5	●	●	●	●	●		1	1	1
18	徳島県	8/22-8/26	5	●		●	●	●	●	3	0	0
19	香川県	8/17-8/30	5	●	●	●	●	●	●	2	0	0
20	愛媛県	9/9-9/13	5			●	●			2	1	1
21	佐賀県	8/22-8/26	5		●	●	●			2	0	0
22	長崎県	9/5-9/7	3			●				3	0	0
23	沖縄県	8/1-5 8/15-19 8/22-26 8/29-9/2 9/5-9	5					●		3	1	1
	小計									89	36	35
都市												
24	旭川市	8/1-5 8/15-19 8/22-26 8/29-9/2 9/5-9 9/12-16 9/26-30	5	●		●	●			2	4	3
25	札幌市	9/5-9/9	5	●	●		●		●	3	15	5
26	郡山市	8/15-19 8/22-26 8/29-9/2 9/5-9	5	●						2	1	1
27	船橋市	8/22-8/26	5	●			●			2	3	2
28	八王子市	8/8-8/12	5	●						2	1	1
29	新潟市	9/5-9/9	5	●	●	●	●			2	2	2
30	長野市	8/23-8/25	3	●			●			2	0	0
31	静岡市	8/1-8/5	5	●		●				1	0	0
32	岡崎市	9/6-9/28 の間	5	●			●	●	●	1	1	1
33	豊田市	8/22-8/26	5	●	●	●	●			2	2	2
34	東大阪市	8/1-8/5	5	●			●			2	0	0
35	姫路市	8/1-8/4	4	●	●	●	●		●	2	0	0
36	岡山市	8/22-8/26 9/5-9/9	5	●	●	●				4	1	1
37	倉敷市	8/22-8/26	5	●			●			2	1	1

38	高知市	8/15-19 8/22-26 8/29-9/2 9/5-9 9/12-16	5	●	●				5	0	0
39	下関市	8/1-8/5	5			●		●	2	2	2
40	北九州市	8/29-9/2	5	●	●	●			2	0	0
41	福岡市	8/29- /8/31	3		●	●		●	2	2	2
42	佐世保市	8/1-8/5	5	●	●				2	0	0
	小計								42	35	23
国等の機関											
43	OIE	7/19-7/22	4	Participating in the 9th FAO/OIE Regional Steering Committee Meeting of GF-TADs for Asia and the Pacific					5	4	4
44	動物検疫所	8/29-9/9	10	動物検疫所成田支所の業務を体験したり、関連施設を見学し、国際空港における動物検疫業務について理解を深める。					9	12	9
45	動衛研	8/22-8/26	5	ウイルス学、細菌学を中心に動物感染症予防・防疫実習を行う。					4	6	4
46	感染研	9/12-9/16	5	国立感染症研究所の概要紹介・病原体等のバイオセーフティー管理等、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の real time PCR 実習、SFTSウイルスの抗体検出 ELISA & IFA（蛍光抗体法）実習、脳組織からの狂犬病ウイルスの蛍光抗体法による検出実習、次世代シーケンサーの解析等のデモと講義など					6	12	6
47	動物医薬品検査所	8/29-9/2	5	動物医薬品検査等実習プログラム					5	9	5
48	JRA【臨床】	8/29-9/2	5	馬のハンドリング、解剖、歩行観察、レントゲン撮影法、超音波診断法、装蹄、全身麻酔、講義など					10	19	12
	JRA【感染症】	8/22-8/26	5	馬のハンドリング、採材法、個体識別法、細菌感染症診断法、ウイルス感染症診断法、感染症病理、講義など					8	18	10
49	農工大	9/5-9/16	10	センターで実施中のプロジェクトに参加し、研究室のメンバーと共にプロジェクトの課題に取り組む。					3	1	1
50	FAMIC	8/24-8/25	2	FAMIC業務概要、施設見学、飼料中の有害物質等(カビ毒、動物由来タンパク質)の分析体験 等					4	3	3
51	FAMIC福岡	9/1-9/2	2	FAMICの業務概要、施設見学、飼料中のサルモネラ属菌の分析体験等、食肉製品の肉種判別法について					3	1	1
	小計								57	85	55
	合計								188	156	113

表2-4 平成28年度春期実習プログラム

	自治体名	期間	日数	実習施設						募集 人数	応募 人数	参加 人数
				本庁・ 保健所	衛生研究 関連施設	食肉衛生 検査所・ と畜場・ 食鳥処理場	動物愛護 関連施設	家畜保健衛 生所	動物園・ その他			
道府県												
1	北海道	鳥インフルエンザのため急遽募集中止								—	—	—
2	群馬県	2/27-3/3	5			●				2	2	2
3	埼玉県	2/20-2/24	5		●	●	●			4	5	5
4	神奈川県	2/13-2/17	5			●				2	6	3
5	富山県	2/13-2/17 2/20-2/24 2/27-3/3 3/6-3/10	5	●	●	●		●		8	2	2
6	長野県	2/20-2/24	5	●		●	●			5	4	4
7	京都府	2/27-3/3	5	●	●	●	●			3	10	3
8	兵庫県	2/27-3/3 3/6-3/10 3/13-3/17	5			●	●			6	14	6
9	香川県	2/7-2/9	3	●	●	●				2	0	0
10	愛媛県	3/10-3/14	5			●	●			2	3	2
11	佐賀県	3/6-3/10	5	●		●				2	3	2
12	長崎県	3/6-3/8	3			●		●		3	1	1
	小計									39	50	30
都市												
13	郡山市	2/13-2/17 2/20-2/24 2/27-3/3 3/6-3/10	5	●		●				2	1	1
14	越谷市	3/13-3/17	5	●		●	●			4	6	4
15	八王子市	2/15-2/21	5	●			●			2	1	1
16	新潟市	2/27-3/3	5	●	●	●	●			2	0	0
17	豊田市	2/20-2/24	5	●	●	●	●			2	1	1
18	姫路市	2/14-16	3	●	●	●	●		●	2	3	3
19	高知市	2/13-2/17 2/20-2/24 2/27-3/3 3/6-3/10 3/13-3/17 3/27-3/31	5	●		●				6	2	2
20	福岡市	2/27-3/2	4			●	●			2	9	3
21	佐世保市	3/6-3/10	5	●		●				2	1	1
	小計									24	24	16
国等の機関												
22	国際獣疫事務局 (OIE) アジア太平 洋地域事務所	2/1-2/7	5	Internship Programme of the OIE Regional Representation for Asia and the Pacific (participating in a meeting of international experts on animal health and food safety)						5	4	4
23	日本養豚開業獣医 師協議会 (JASV)	2-3月中	3~5	養豚現場の第一線で働く管理獣医師のもとでの研修						10	7	7
	小計									15	11	11
	合計									78	85	57

平成 28 年度夏期および春期実習の現場は、図 2-4 および図 2-5 が示す通りであり、通年において学生が実際に手を動かして作業・ラボワークを行う体験実習や職員の隣に付いて業務を行う帯同実習が主体となっており、講義や見学の实習は最小限にとどめるような実習プログラムを作成した。

具体的な実習内容の例として、家畜保健衛生所では BSE や細菌・ウイルスの検査、動物愛護施設では保護されている動物の世話や譲渡会への参加、食肉衛生検査所ではと畜検査、衛生研究関連施設では微生物検査、保健所では水質検査や飲食店当への立ち入り検査同行などが行われた。

平成 28 年度実習への応募学生および参加学生は図 2-7 の通り全国獣医系 16 大学全校からみられた。私立大学においては学生の母数が多いことから、応募者及び参加者数が多い傾向だった。

参加学生を学年別に比較すると図 2-8 の通り、5 年生の参加者が最も多く、次いで 4 年生、3 年生の順だった。実習の募集要項に「参加資格」として 4~5 年生を指定している機関も多いことから、参加学生数は 4~5 年生が多い傾向であるが、3 年生以下や大学院生の参加者も見られた。

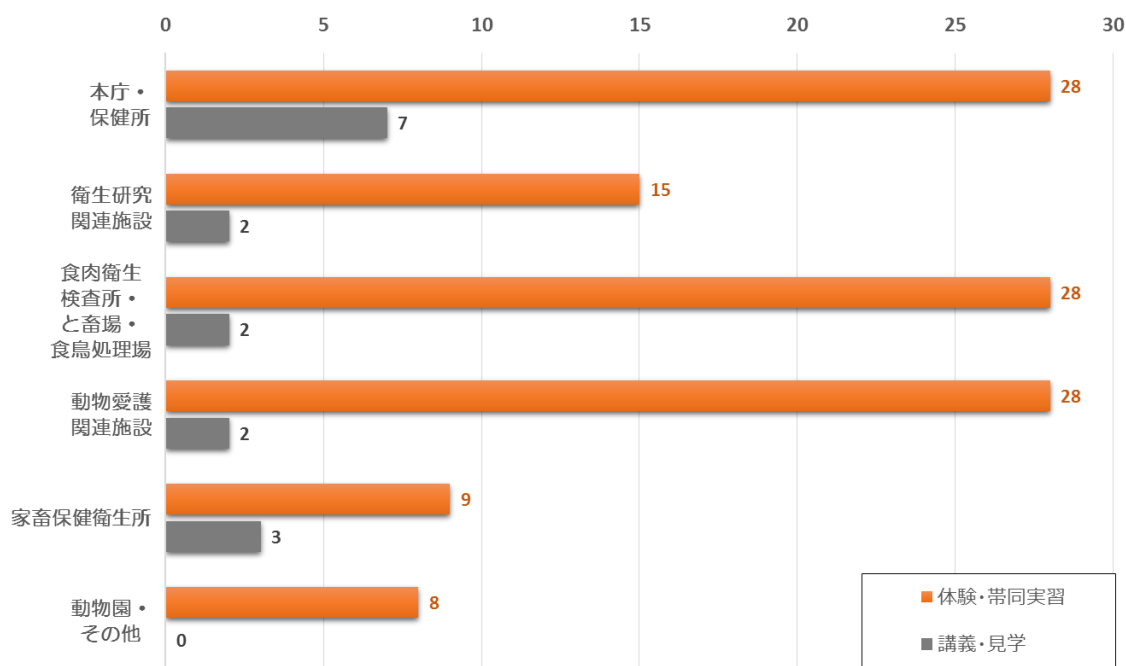


図 2 - 4 平成 28 年度夏期実習現場

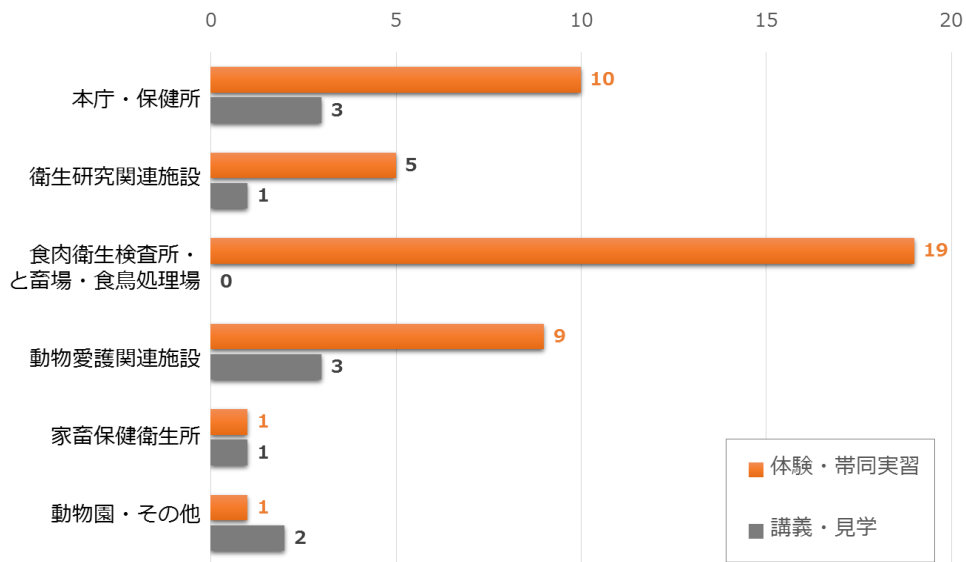


図 2 - 5 平成 28 年度春期実習現場

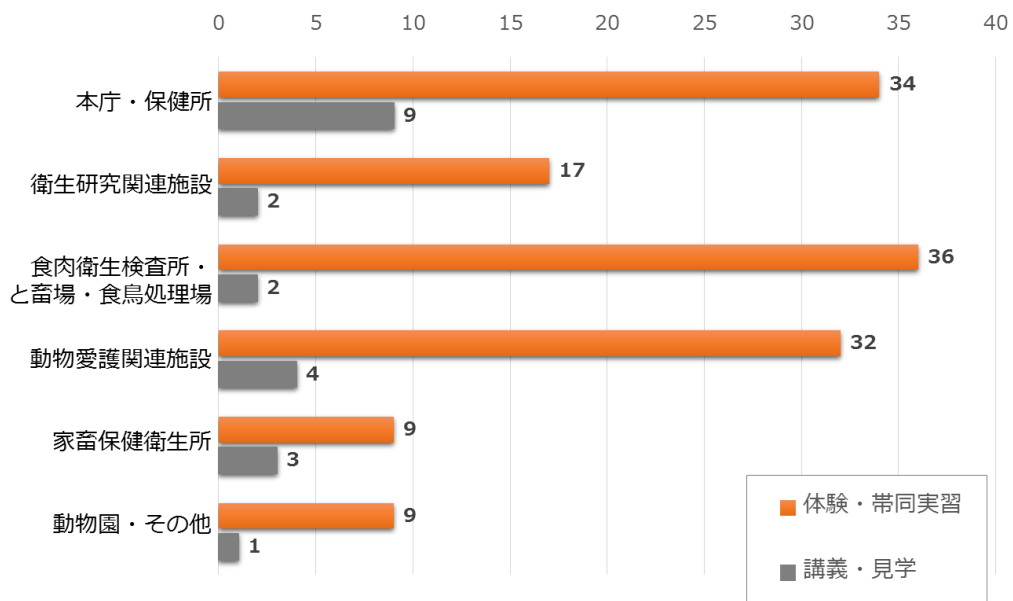


図 2 - 6 平成 28 年度全体の实習現場

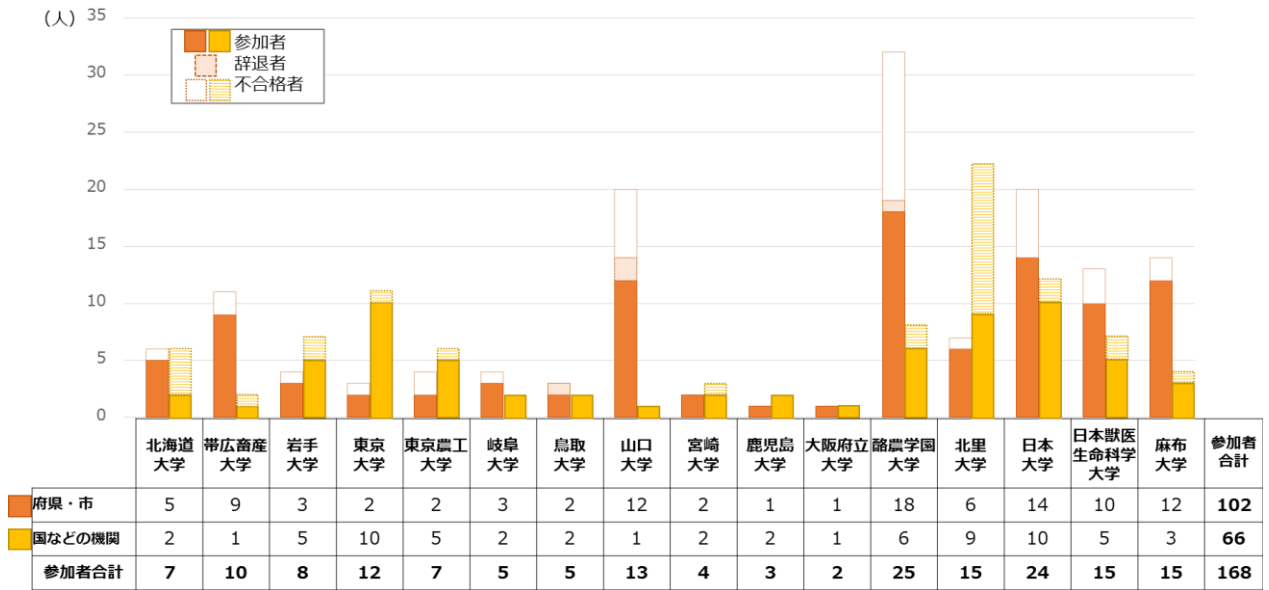


図 2 - 7 平成 28 年度全国獣医系 16 大学別実習参加者数

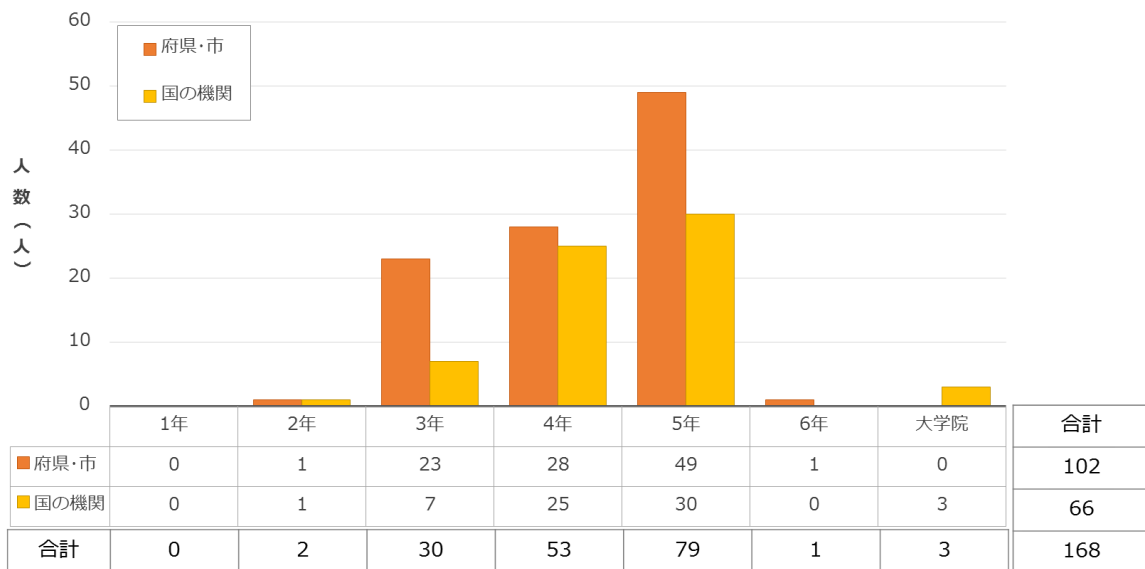


図 2 - 8 平成 28 年度学年別参加学生の比較

2.2.2. 講義プログラムの収録

平成 26 年度は 10 名の講師に講義を依頼し 23 コマの講義を収録し、平成 27 年度はさらに 16 名の講師に講義を依頼し 22 講義を追加した。

平成 28 年度は新たに 10 名の講師に講義を依頼し 17 コマの講義を収録、そして 3 名の講師による 4 講義について内容の更新（再収録）を行い、配信した（表 2-5）。講義時間は 1 コマ当たり 20 分前後に設定し、学生が集中して視聴できるように配慮した。また、講義は youtube へアップロードし、パスワードを入力することで視聴可能になる形式をとった。

受入機関は、学生が実習を受ける前に視聴して欲しい講義を指定し、募集要項に参加条件として記載できる。参加する学生にはパスワードを配布し、実習前に講義を視聴するよう指示した。

平成 26 年度は 10 名の講師に講義を依頼し 23 コマの講義を収録し、平成 27 年度はさらに 16 名の講師に講義を依頼し 22 講義を追加した。

表2-5 平成26年度から平成28年度までに収録・配信した事前講義の一覧

(表中の は平成28年度に新たに収録した講義、 は再収録した講義を示す。)

講義タイトル	講師	収録年
0.参加者必修講義		
VPcamp参加にあたって～実習を受ける際の心得～実習チェックリスト	東京大学 杉浦勝明	28
1.獣医公衆衛生行政・法規		
公衆衛生と獣医師	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文	26
獣医公衆衛生行政の仕組み	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文	26
公衆衛生行政のための法律 総論 I (食品衛生法、と畜場法、食鳥検査法)	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文	26
公衆衛生行政のための法律 総論 II (感染症法)	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文	26
日本の食品安全行政のしくみ	内閣府 食品安全委員会 小財恵	26
食品安全のリスク評価について	内閣府 食品安全委員会 松下茜	26
保健所・食肉衛生検査所の業務内容	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文	26
食品衛生監視員の役割	東京家政大学 森田幸雄	26
と畜検査員の役割およびと畜処理	東京家政大学 森田幸雄	26
と畜場で全部廃棄・部分廃棄になる疾病	東京家政大学 森田幸雄	26
動物愛護管理行政について	環境省 今西保	26
狂犬病予防業務 動物愛護管理業務について	東京都 動物愛護相談センター 新井 英人	27
「食鳥検査」について	宮崎県 福祉保健部衛生管理課 下村高司	27
食鳥処理場における衛生管理 (HACCPを含む)	宮崎県 福祉保健部衛生管理課 下村高司	27
2.家畜衛生行政・法規		
最近の家畜衛生をめぐる情勢について (国内防疫 I)	農林水産省 石川清康	28
最近の家畜衛生をめぐる情勢について (国内防疫 II)	農林水産省 石川清康	28
家畜衛生行政 動物検疫 (輸出入検疫)	農林水産省 伏見啓二	27
動物薬事行政 I	麻布大学 平山紀夫	27
動物薬事行政 II	麻布大学 平山紀夫	27
家畜保健衛生所の役割	愛知県 家畜保健衛生所 神谷俊樹	27
家畜防疫員の責務	愛知県 家畜保健衛生所 神谷俊樹	27
動物検疫所について	農林水産省 伊藤和夫	28
動物検疫	農林水産省 伊藤和夫	28
動物検疫所の獣医師の責務	農林水産省 伏見啓二	27
3.食品安全		
と畜場で防いでいる人獣共通感染症について	東京家政大学 森田幸雄	26
と畜場HACCPについて	東京家政大学 森田幸雄	26
食肉の対米・対EU輸出	東京家政大学 森田幸雄	26
農場HACCPの概要	那須イーテイ研究所 西貝正彦	27
農場HACCP認証審査について	那須イーテイ研究所 西貝正彦	27
食品由来感染症の概要	国立医薬品食品衛生研究所 五十君静信	27
野生鳥獣肉の衛生対策 (1)	日本大学 壁谷英則	28
野生鳥獣肉の衛生対策 (2)	日本大学 壁谷英則	28
4.感染症防疫		
人獣共通感染症と新しい獣医師の役割 I	千葉科学大学 吉川泰弘	26
人獣共通感染症と新しい獣医師の役割 II	千葉科学大学 吉川泰弘	26
アルボウイルス感染症	国立感染症研究所 高崎智彦	27
家畜に分布する薬剤耐性菌の現状と対策	岐阜大学 浅井鉄夫	27
動物に由来する薬剤耐性菌	岐阜大学 浅井鉄夫	28
愛玩動物由来感染症	国立感染研究所 今岡浩一	27
狂犬病ウイルスについて	国立感染研究所 井上智	28
5.動物福祉		
小動物診療分野で期待する職業倫理 I	獣医療問題研究会 山村穂積	26
小動物診療分野で期待する職業倫理 II	獣医療問題研究会 山村穂積	26
災害時動物マネジメント (資料のみ)	新潟県動物愛護センター 遠山潤	(27)

6.畜産資材		
動物用ワクチンについて	麻布大学 平山紀夫	26
ペットの食の安全確保 ペットフードの種類と市場	獣医療法食評価センター 藤井立哉	26
ペットの食の安全確保 ペットフードの製造と品質管理	獣医療法食評価センター 藤井立哉	26
薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン	動物医薬品検査所 山本実	28
配合飼料の製造と品質管理 -牛用配合飼料を中心に-	雪印種苗株式会社 多田真一	28
飼料原料となる穀物の需給 (1)	関東グリーンターミナル株式会社 大盛浩典	28
飼料原料となる穀物の需給 (2)	関東グリーンターミナル株式会社 大盛浩典	28
農場のバイオセキュリティ (1)	株式会社スワイン・エクステンション&コンサルティング 大竹	28
農場のバイオセキュリティ (2)	株式会社スワイン・エクステンション&コンサルティング 大竹	28
養豚管理獣医師の業務と役割 ~養豚場へのコンサルティング~	有限会社サミットベテリナリーサービス 石関紗代子	28
7.獣疫学		
はじめに	東京大学 杉浦勝明	27
牛白血病の疫学調査	動物衛生研究所 小林創太	27
生産現場のデータを用いた疫学研究	酪農学園大学 中田健	27
動物感染症とシミュレーションモデル	動物衛生研究所 山本健久	27
ペット保険データを用いた疫学研究	アニコム損害保険株式会社 井上舞	27
8.馬の臨床学		
馬の臨床学総論	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 上野儀治	25
馬の構造特性	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 桑野睦敏	25
馬の臨床学総論と競馬におけるドーピング	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 上野儀治	25
馬の運動器疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 笠嶋快周	25
馬の循環器・呼吸器疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 大村 一	25
馬の消化器・眼科疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 和田信也	25
臨床繁殖学・産科学	日本中央競馬会(JRA) 日高育成牧場 南保泰雄	25
馬感染症総論	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 奥河寿臣	25
9.国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所		
OIE入門-獣医学を志す学生のために-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文	28
OIEの役割と活動(1)-動物疫病情報の収集提供-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文	28
OIEの役割と活動(2)-国際基準の設定-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文	28
OIEの役割と活動(3)-科学的ネットワーク-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文	28
OIEの役割と活動(4)-各国・地域への支援-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文	28
10.その他		
家畜改良増殖目標について	農林水産省 菊池淳志	27
酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針について	農林水産省 鈴木恭人	27
アフリカ豚コレラ~養豚産業への世界的脅威~	サンチェス・ヴィスカイノー教授	27
The training of official veterinarians in France. I	Professor Marc ARTOIS	26
The training of official veterinarians in France. II	Professor Marc ARTOIS	26
58講義(再収録4講義を含む)+17講義		

2.2.3. 広報活動

平成 28 年度においては、実習の具体例や実習先例が記載された学生向けの三つ折りパンフレットを作成し、夏期実習および春期実習の学生募集期間前に合わせ、全国獣医系 16 大学の低学年も含めた全学生へ配布した（図 2-9 および図 2-10）。また、実習時期が他実習先と比べて変則的である国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域事務所の実習については、別途 A4 のチラシを作成し（図 2-11）、夏期実習においては東京大学農学部獣医系研究室へ配布、春期においてはコーディネータを通じて全国獣医系大学へ配布を行った。

平成 26 年度に「獣医学生のための実習インターンシッププログラム」の愛称「VPcamp」を作成し、全国獣医系 16 大学へのポスター掲示依頼や学生への VPcamp Book（参加学生のための手引書）配布を行った。平成 27 年度においても同様に A1 版ポスターを作成して夏期実習の募集開始前に全国獣医系 16 大学へ配布し、掲示を依頼した。また、A4 版見開きのチラシを作成し、学生と自治体へ配布した。春期実習の募集開始前には、実習への応募から参加までの流れと平成 28 年度のカレンダーが記載されている B7 版 VPcamp Book を作成し、全国獣医系 16 大学の 1～5 年生に配布。さらに平成 28 年度のカレンダーが記載されている A4 版クリアファイルを全国獣医系 16 大学の 1～5 年生に配布し、次年度の実習に向けた情報の周知を行った。



平成 28 年 6 月 6000 部作成
16 大学全学年へ配布



図 2 - 9 三つ折りパンフレット（夏期実習向け）



平成 28 年 12 月 6000 部作成
16 大学 1~5 年生へ配布

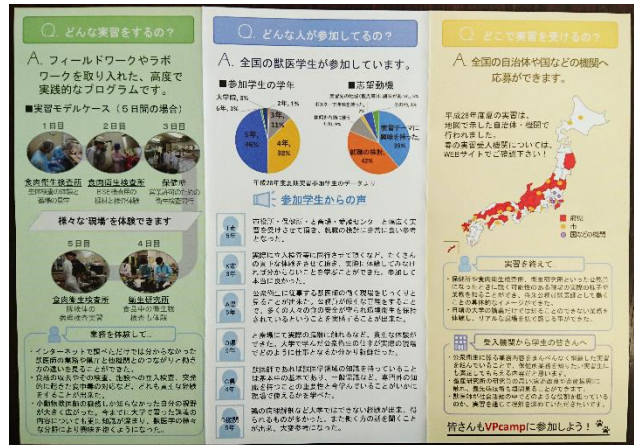


図 2-10 三つ折りパンフレット (春期実習向け)

<研究室ご在籍の獣医学部 4 年生・5 年生・獣医学専攻大学院生へおへ>

日時: 夏・7/10、夏・8/20にて開催
世界の最新情報に触れるチャンス! 締切期近 7/10まで

国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所 インターンシップのお知らせ

この夏、国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所ではインターンシップに参加する学生を募集しています!
このインターンシップでは、東京大学内で実施される 2 日 IACU/OIE アジア太平洋地域 OIE-FALC「国際獣疫事務局の最新入札について」に併行して、OIE 東京事務所にて、OIE 東京事務所に関する研修を実施いたします。

この機会にインターンシップに参加し、国際獣疫事務局と、OIE 東京事務所と直接交流することができます!

OIE-FALC (The Global Framework for Regulation of Transboundary Animal Diseases) OIE と OIE 加盟国との関係
OIE 加盟国の関係性に関する研修

世界の最新情報に触れるチャンス! 世界の最新情報に触れるチャンス!

■東京事務所一泊二泊制

日付	千原	千原
7月19日(木)	・1泊2食(朝食) ・OIEとOIE-FALCの役割 ・OIE東京事務所について、OIE東京事務所	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所
7月20日(金)	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所
7月21日(土)	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所
7月22日(日)	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所	・OIE東京事務所 ・OIE東京事務所

東京大学 5 階 OIE 事務局、OIE 東京事務所

VPcamp

夏期へ参加希望の学生は、VPcamp から応募、もしくは、vpcamp@vetintern.jp へお問い合わせください!

夏期実習用

<研究室ご在籍の獣医学部 5 年生・6 年生・獣医学専攻大学院生へおへ>

国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所 インターンシップ募集のお知らせ

場所: 東京大学(ワールドサイエンス棟 5 階 OIE 事務所・階中島記念ホール)

狂犬病、鳥インフルエンザ、豚コレラ、牛ウイルス性下痢、地域における最新の健康と福祉の役割の向上を目指す
アジア太平洋地域の現状に触れておこう!

国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所では、インターンシップに参加し、OIE 東京事務所にて研修を実施いたします。

2月6、7日の両日、東京大学内で研修から「アジア太平洋地域(OIE)の現状と課題」に定着スタッフとして参加し、OIE 東京事務所にて研修を実施いたします。

(※ OIE/FALC の主要な活動に関する研修は、OIE、OIE-FALC による研修を実施する予定です)

国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所では、OIE 東京事務所にて研修を実施いたします。

狂犬病、鳥インフルエンザ、豚コレラ、牛ウイルス性下痢、地域における最新の健康と福祉の役割の向上を目指す
ぜひ、OIE のインターンシップに参加して、最新の情報に触れておこう!

※ OIE/FALC センターは、2016年10月のアラブサウジアラビで2016年10月のコンプレックスセンターを開設しているアジア太平洋地域のグローバルネットワークです。

Eligible grade of students
対象学年
5-6 grades and postgraduates
Dates
開催期間
1-3 and 6-7 February 2017 (5 days)
Acceptable No. of students
募集人数
5
English proficiency
英語能力
Score of English proficiency test equivalent to or more than
TOEFL iBT 85, TOEIC 750 or
EIKEN Test in Practical English Proficiency Grade Pre-1

夏期へ参加希望の学生は、VPcamp から応募、もしくは、vpcamp@vetintern.jp へ直接ご連絡ください!

春期実習用

図 2-11 国際獣疫事務局 (OIE) 実習プログラムのチラシ

また、平成 27 年度本事業ホームページへのアクセス数を Google Analytics を用いて解析したところ、実習の募集開始に合わせてホームページへのアクセス数が高くなった(図 2-12)。平成 28 年度も同様にホームページへのアクセス数を Google Analytics を用いて解析したところ、三つ折りパンフレットが学生の手元に届いた頃からアクセス数が高くなり、実習の募集開始に合わせてホームページへのアクセス数が高く維持された(図 2-13 および図 2-14)。

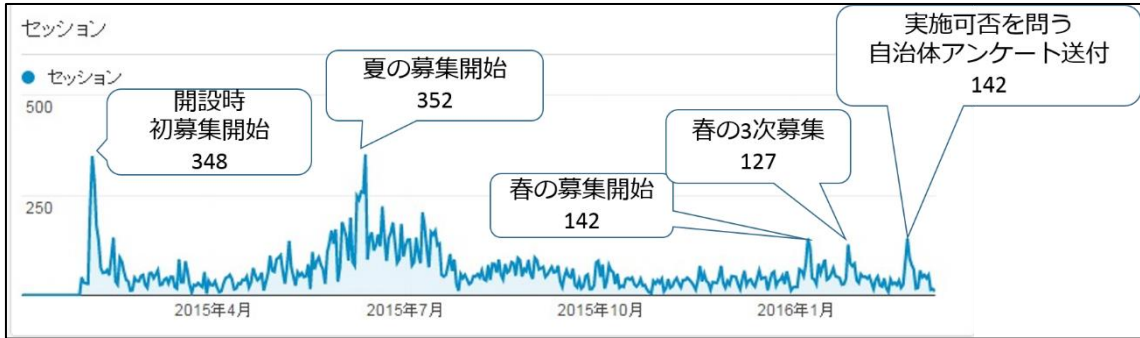


図 2 - 1 2 平成 27 年度ホームページへのアクセス数推移

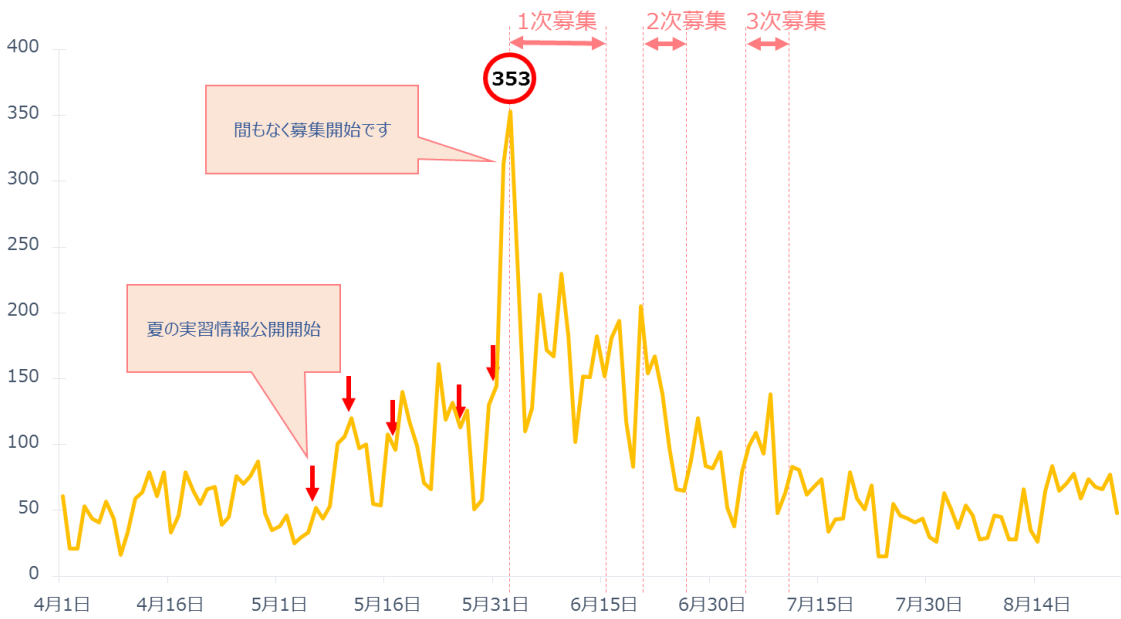


図 2 - 1 3 平成 28 年度ホームページへのアクセス数推移<夏期実習：学生募集前～後>

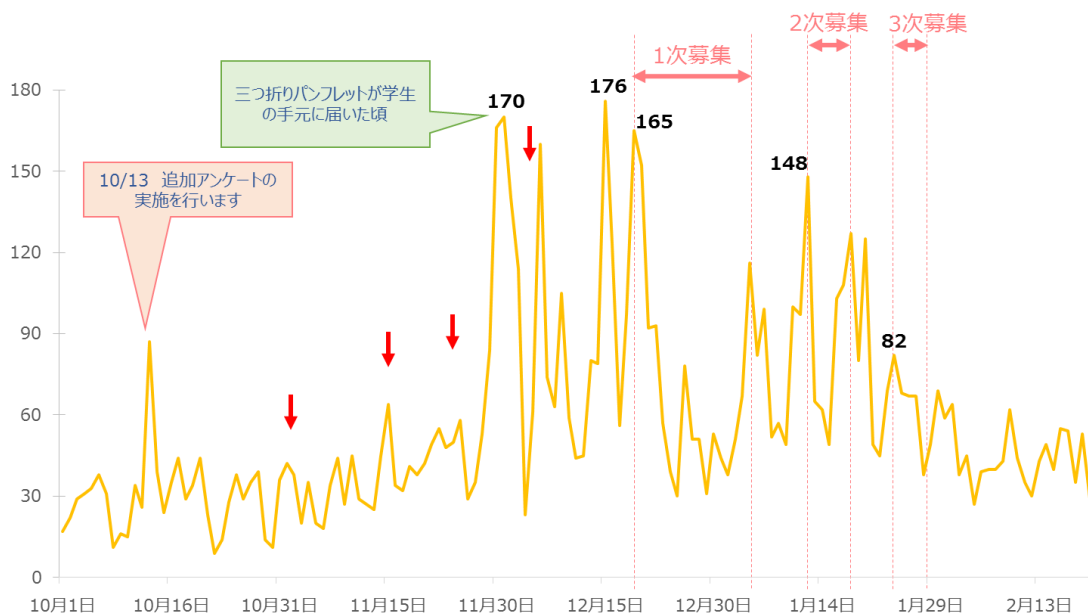


図 2 - 1 4 平成 28 年度ホームページへのアクセス数推移<春期実習：学生募集前～後>

SNS を使用する頻度の高い世代である学生に対する情報の拡散を目的として、平成 27 年度に Facebook のページを開設した (図 2-15)。その結果、常に一定の閲覧数があり、ページに記事が投稿されることで閲覧数も上がった (図 2-16)。

平成 28 年度も引き続き FaceBook を用いて情報の拡散を行った。ホームページの更新情報、事前講義収録の様子、パンフレット配布の告知、実習情報更新のお知らせ、学生募集の開始など、前年度よりも頻度高く更新を行った。その結果、学生募集期間が近づくとつれて閲覧数も多くなる傾向が見られた (図 2-17 および図 2-18)。



図 2 - 1 5 Vpcamp の Facebook ページ

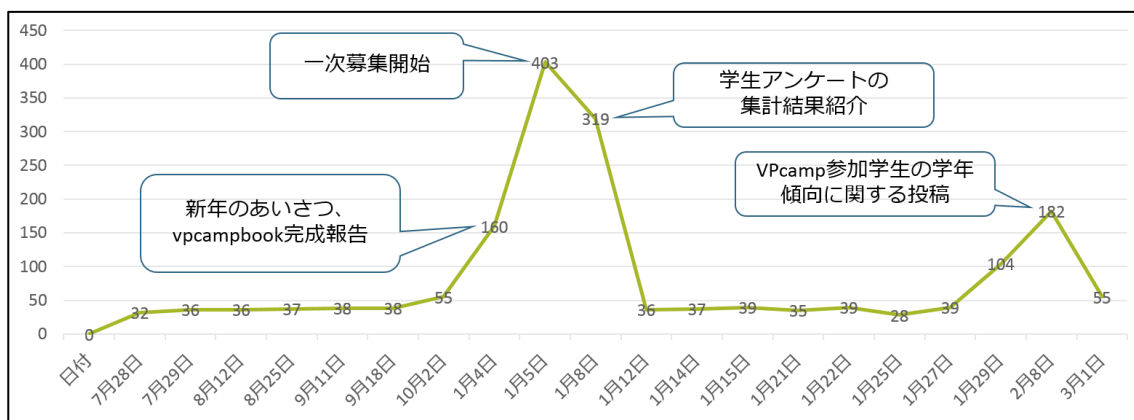


図 2 - 1 6 平成 27 年度 Facebook ページへの閲覧数

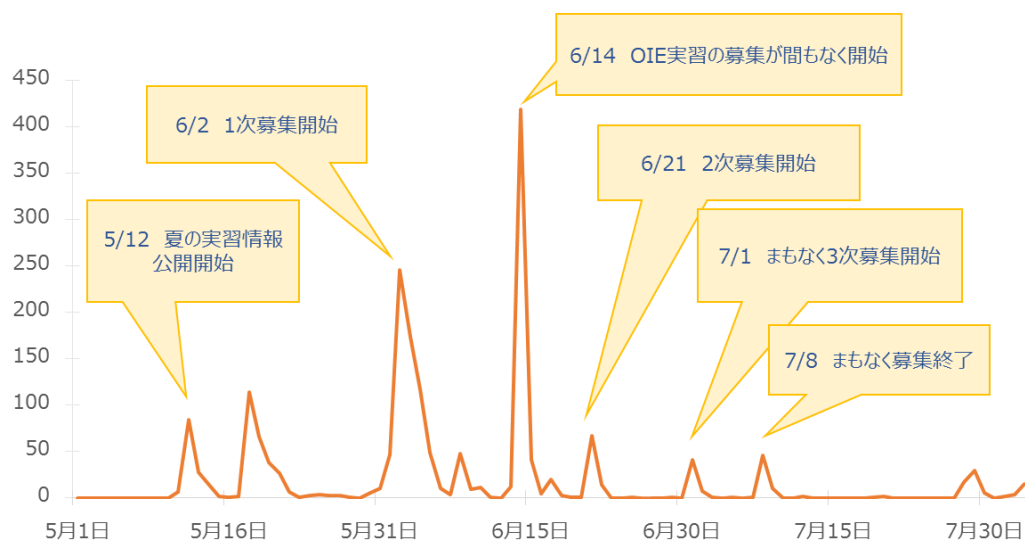


図 2 - 1 7 平成 28 年度 Facebook ページへの閲覧数 <夏期実習：学生募集前～後>

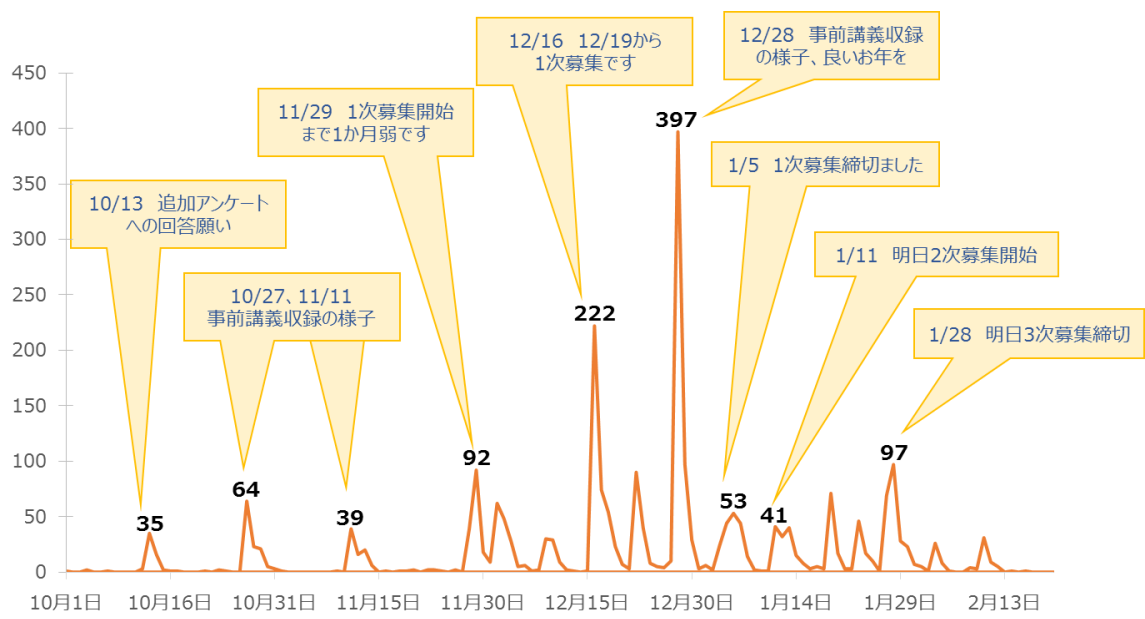


図 2 - 1 8 平成 28 年度 Facebook ページへの閲覧数 <春期実習：学生募集前～後>

2.2.4. 実習受入機関への消耗品の提供

平成 28 年度も 26, 27 年度に引き続き、実習プログラムの円滑な実施を図るため実習受入機関の要望に応じ、消耗品（使い捨て白衣、マスク、手袋、ゴム長、スライドガラス、試薬・検出キット、注射針など）の提供をおこなった。平成 28 年度夏は、5 府県、2 市、5 国などの機関、平成 28 年度春は 6 府県、1 国などの機関に対し、消耗品の提供を行った。

2.2.5. 実習の事後評価

平成 28 年度夏期実習においては、26, 27 年度に引き続き、学生に対して実習参加後に「実習後アンケート」を実施した。平成 28 年度第 1 回コーディネータ会議会議での意見を踏まえ、実習へ参加したことによる学生の意識変化をより明らかにするために、本事業の実習に参加したことのある全学生（平成 26 年度・平成 27 年度夏期および春期・平成 28 年度夏期実習参加学生）を対象に事後的に「追加アンケート」を実施し、実習参加前の公衆衛生分野への興味の度合いを検討した（表 2-6）。

また、平成 28 年度春期実習においては、実習参加後の「実習後アンケート」に加え、「実習前アンケート」を実施した（表 2-6）。

追加アンケートでは、レトロスペクティブにアンケートを実施したことによる“思い出しのバイアス”が回答に影響していることが可能性として考えられる。実際の実習前後における、学生の実習参加による意識変化を調査するために、平成 28 年度春期実習において新規で実習前アンケートを試みた。

表 2 - 6 アンケート回答対象者

実施したアンケート	対象者
(A) 追加アンケート (設問項目は参考資料 1 を参照)	H26、H27 夏期、H27 春期、H28 夏期 実習参加学生
(B) 実習前アンケート（H28 春期から実施） (設問項目は参考資料 2 を参照)	H28 春期 実習参加学生
(C) 実習後アンケート (H26 から実施、H28 春期に一部内容を更新して実施)	H26、H27 夏期、H27 春期、H28 夏期、H28 春期 実習参加学生

2.2.5.1. 追加アンケートの結果

実習参加前の進路第一志望は、地方公務員、国家公務員、小動物臨床の順が多かった（図 2-19）。一方、実習参加後の進路第一志望は、地方公務員、国家公務員、その他、会社員の順が多かった。実習参加後に小動物臨床を第 1 志望とする学生が減少するという特徴があった。

興味のある行政区分に関する設問では、実習参加後に公衆衛生行政および家畜衛生行政へ興味を持つ学生が増加した（図 2-20）。一方で動物福祉行政へ興味を持つ学生が減少する結果となった。

関心のある分野について調査した結果に関する設問では、実習参加後には食品衛生（食肉含む）、感染症、動物愛護、家畜衛生の全項目について関心を持つ学生が増加した（図 2-21）。

働きたいと思う施設に関する設問では、実習参加前後で興味を持つ学生が一つの項目を除き全てで増加した（図 2-22）。

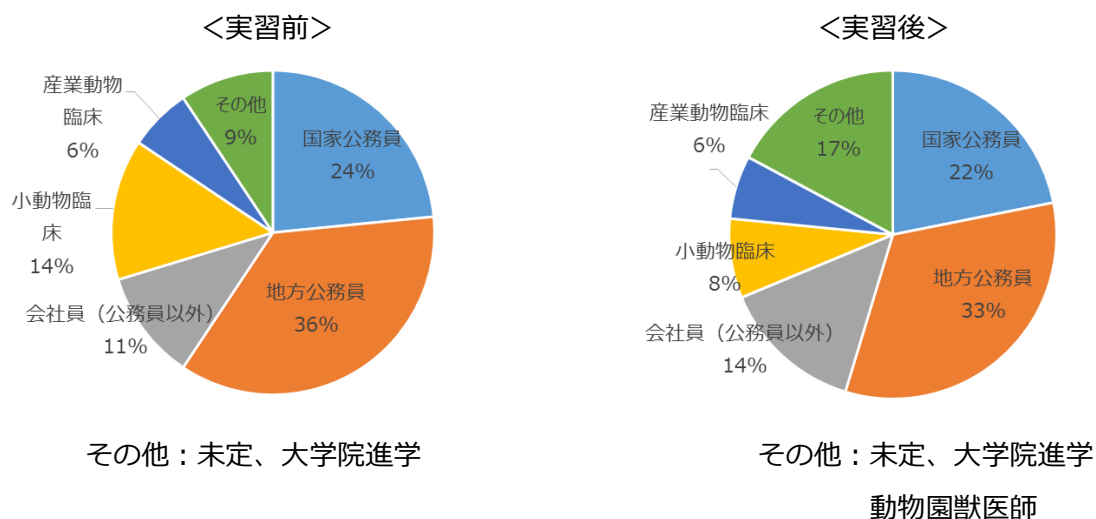


図 2 - 1 9 進路の第一志望 (n=64)

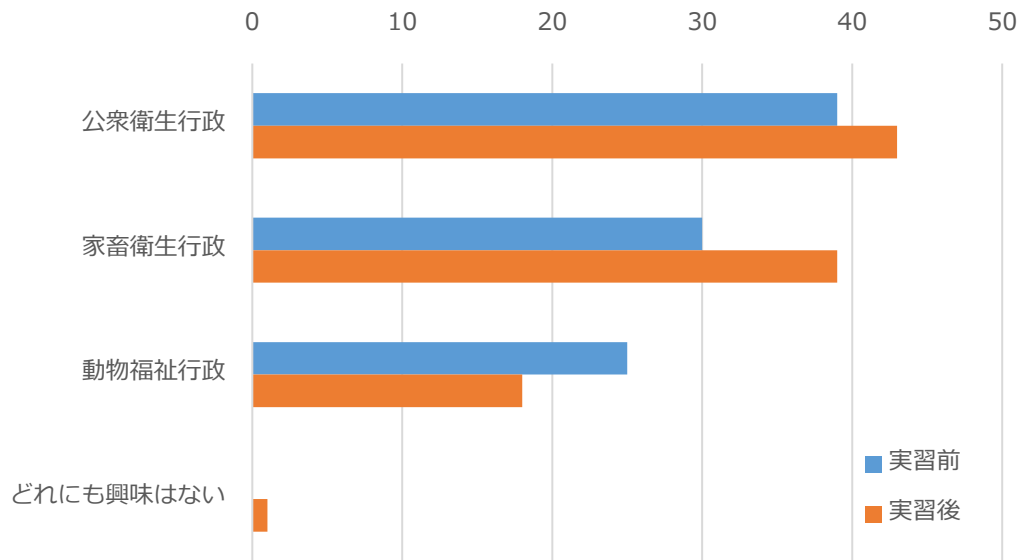
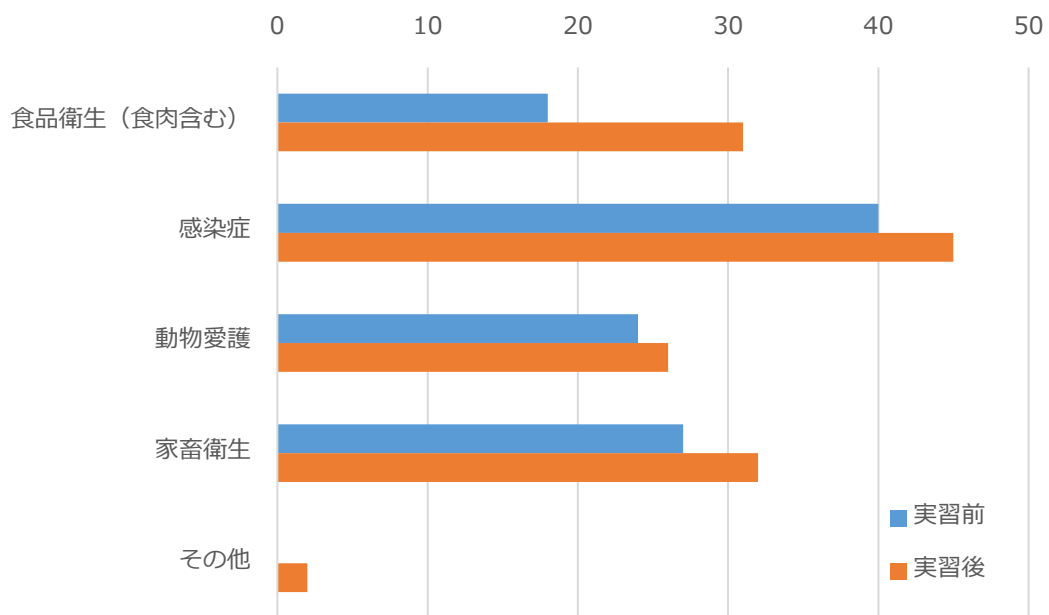
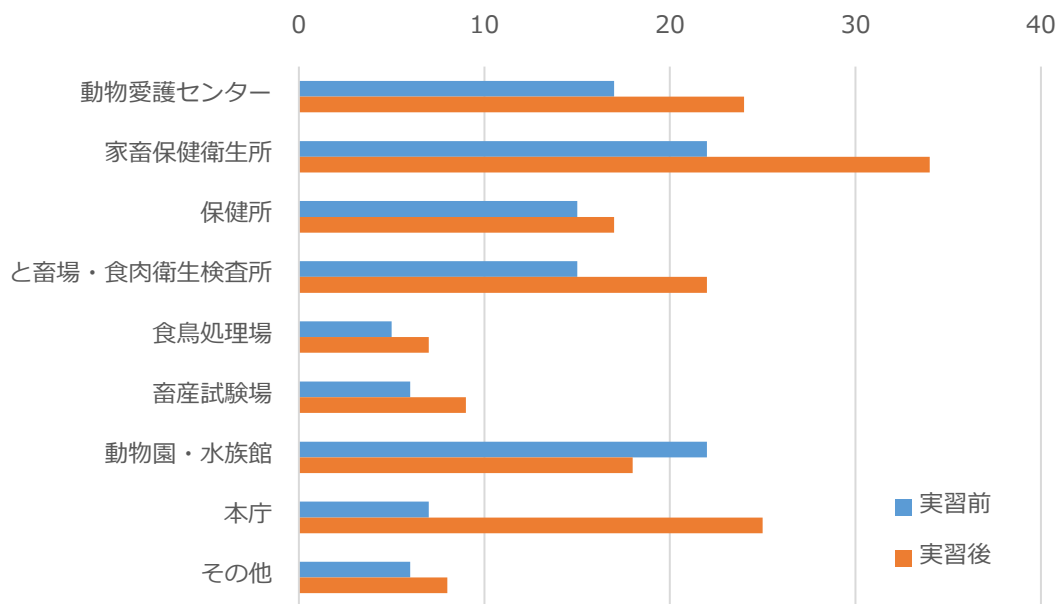


図 2 - 2 0 興味のある行政区分 (n=64、複数回答可)



その他：遺伝子多様性保全、環境教育

図 2 - 2 1 関心のある分野 (n=64、複数回答可)



その他：(実習前) 空港、動物検疫所、国際機関、動物病院、大学院進学
 (実習後) 空港、動物検疫所、国際機関、日本中央競馬会、
 地方衛生研究所、動物検疫所

図 2 - 2 2 働きたいと思う施設 (n=64、複数回答可)

2.2.5.2. 実習前アンケートの結果

興味のある行政区分としては、公衆衛生行政、動物福祉行政、家畜衛生行政の順に興味を持つ学生が多かった(図 2-23)。

関心のある分野に関する設問では、動物愛護、感染症、食品衛生(食肉含む)、家畜衛生の順に関心を持つ学生が多かった(図 2-24)。

働きたいと思う施設に関する設問では、動物愛護センター、家畜保健衛生所、動物園・水族館の施設に関心を持つ学生の多かった上位3つである。(図 2-25)。動物愛護センターへの関心の高さは、図 2-24 において動物愛護分野へ関心を持つ学生が多かったことと相関していた。

実習前アンケートで得られた結果(図 2-23、図 2-24 および図 2-25)は、以下に示す実習後アンケートの図 2-37、図 2-38 および図 2-39 と比較することで、実習前後における学生の意識変化を見ることができる。

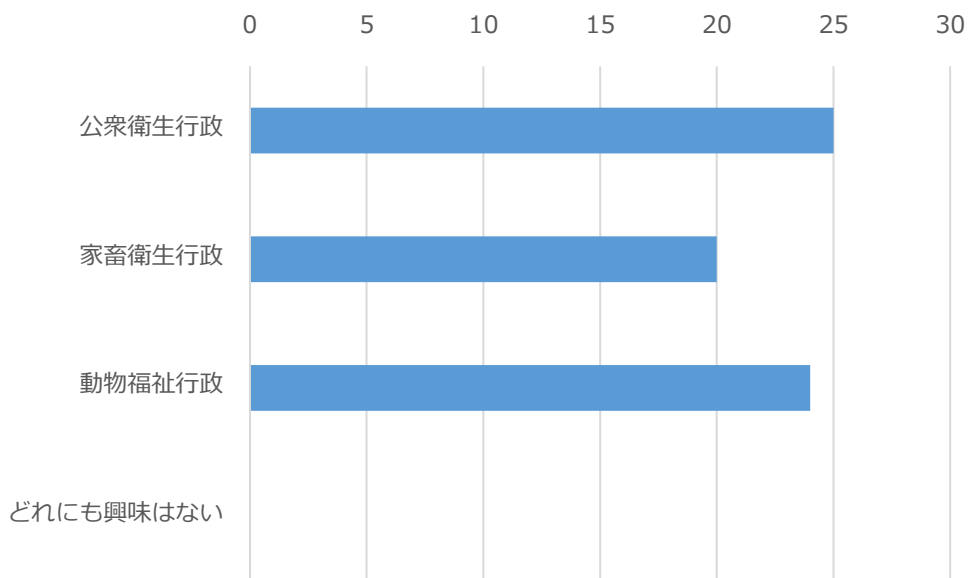


図 2 - 2 3 興味のある行政区分 (n=39、複数回答可)

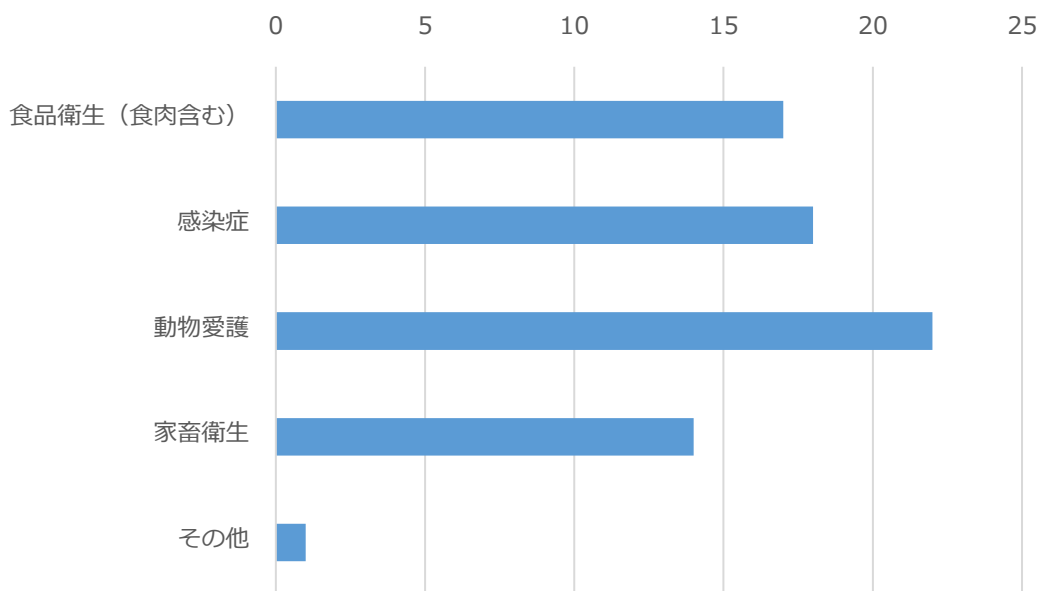


図 2 - 2 4 関心のある分野 (n=39、複数回答可)

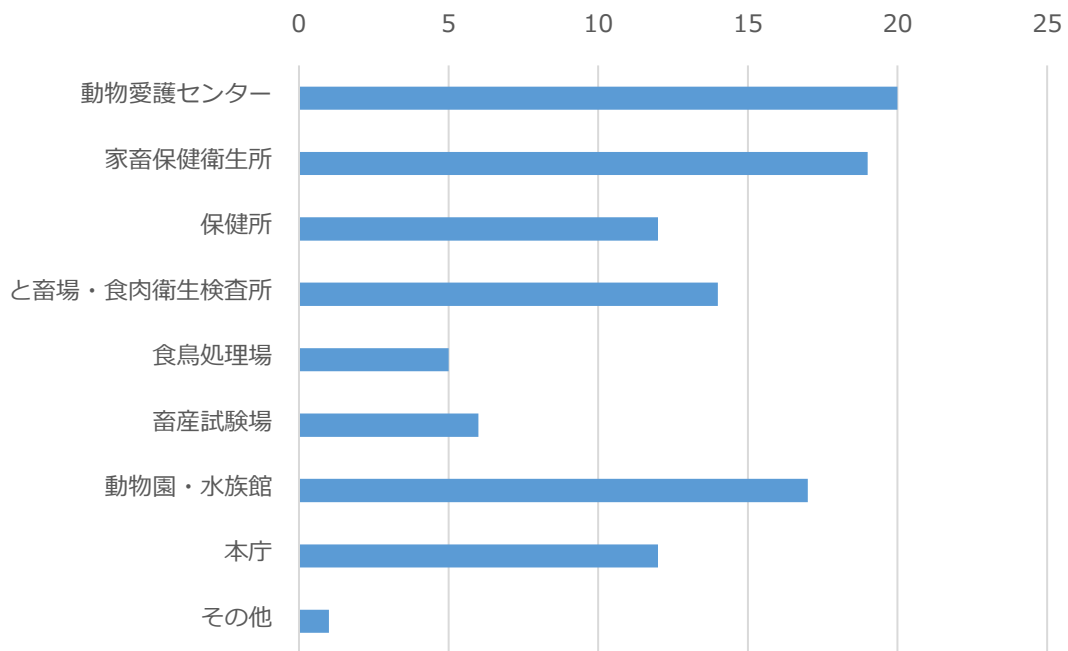


図 2 - 2 5 働きたいと思う施設 (n=39、複数回答可)

2.2.5.3. 実習後アンケート（平成 28 年夏期および春期）の結果

夏期実習の参加者 111 名中、90 名および、春期実習の参加者 57 名中 31 名から回答が得られた。

応募動機に関する設問では、夏期実習における実習への第 1 応募動機は「就職検討のため」が多く、次いで「実習テーマに興味を持ったため」だった（図 2-26）。第 2 応募動機には「休暇を有効に使うため」も多く見られた。（図 2-26）

春期実習における実習への第 1 応募動機は「就職検討のため」が多く、次いで「実習テーマに興味を持ったため」だった（図 2-27）。第 2 応募動機には「休暇を有効に使うため」または「ポスターに興味を持ったため」という回答も多く見られた。（図 2-27）

アンケート回答者の参加実習先及び実習先選択の理由に関する設問では、夏期実習においては国等の機関、道府県、都市の順に参加者が多く、実習先選択の理由は「実習内容に興味をもったから」が 6 割を占めた（図 2-28）。また、「実家が近いから」や「出身県が近いから」という理由も多く見られた。

春期実習においては道府県、都市、国等の機関の順に参加者が多く、実習先選択の理由は「実家が近いから」と「実習内容に興味をもったから」がおよそ同率だった（図 2-29）。

実習内容の理解度に関する設問では、夏期実習および春期実習ともに「良く理解できた」と「理解できた」が99%以上を占めた（図 2-30）。

実習期間の適正に関する設問では、「ちょうどよかった」という回答が夏期実習では86%、春期実習では97%と大多数を占めた（図 2-31）。

実習に対する満足度に関する設問では、「満足」および「ほぼ満足」という回答を合わせて夏期実習では95%、春期実習では100%と大多数を占めた（図 2-32）。

公衆衛生分野への理解度および関心度に関する設問では、夏期実習において87%の学生が「理解が深まった」、77%の学生が「関心が増した」と回答した（図 2-33）。

春期実習において100%の学生が「理解が深まった」、100%の学生が「関心が増した」と回答した（図 2-34）。

知識や技術の習得度合に関する設問では、「かなり身に付いた」および「身に付いた」という回答を合わせて夏期実習では77%、春期実習では81%と大多数を占めた（図 2-35）。

就職先としての関心度に関する設問では、「増した」という回答が夏期実習では88%、春期実習では87%と大多数を占めた（図 2-36）。

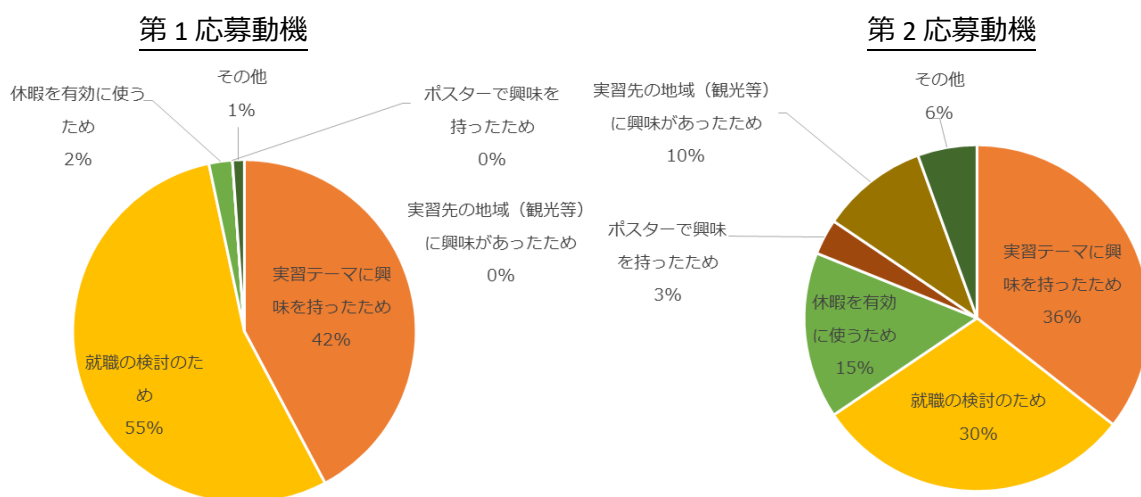


図 2 - 2 6 実習への応募動機<夏期実習 (n=90) >

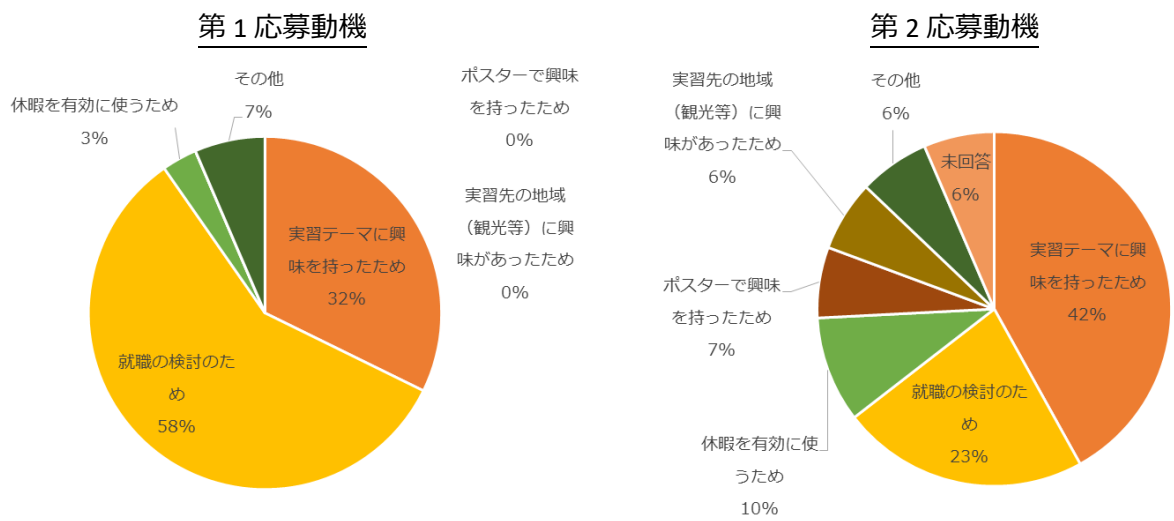
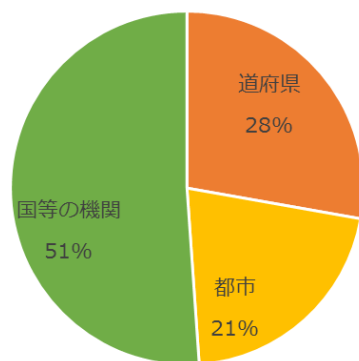


図2-27 実習への応募動機<春期実習 n=31>

回答者の参加実習先



実習先選択の理由

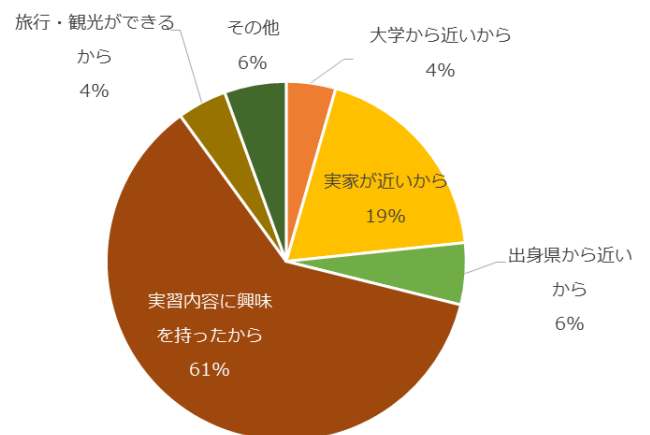
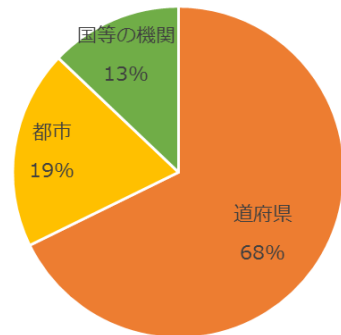


図2-28 回答者の参加実習先と実習先選択の理由<夏期実習 (n=90)>

回答者の参加実習先



実習先選択の理由

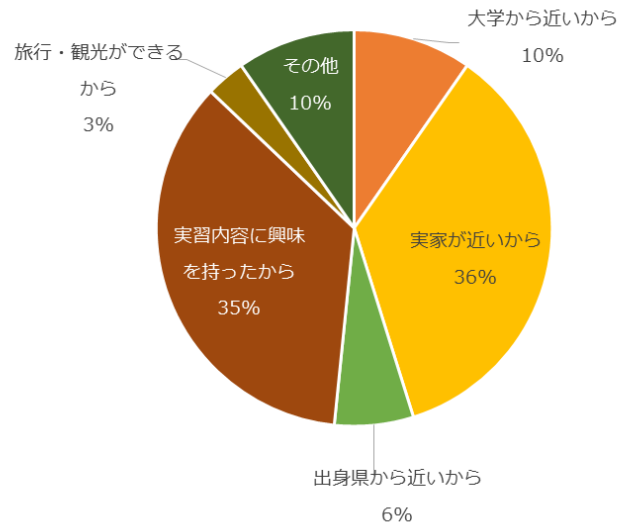
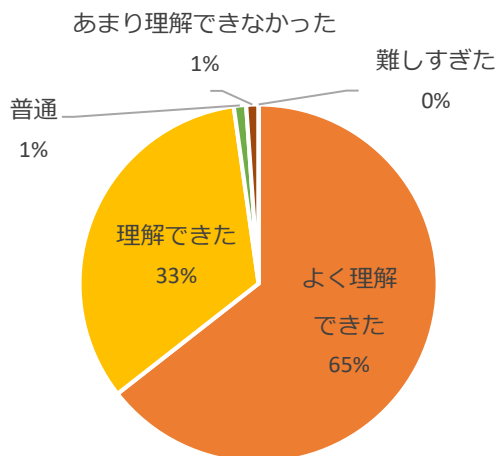


図 2 - 2 9 回答者の参加実習先と実習先選択の理由<春期実習 (n=31)>

<夏期実習 (n=90)>



<春期実習 (n=31)>

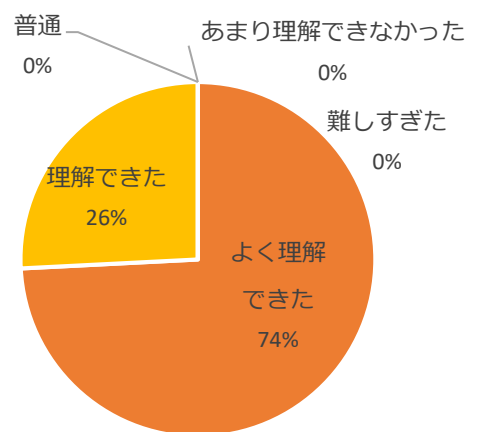


図 2 - 3 0 実習内容の理解度

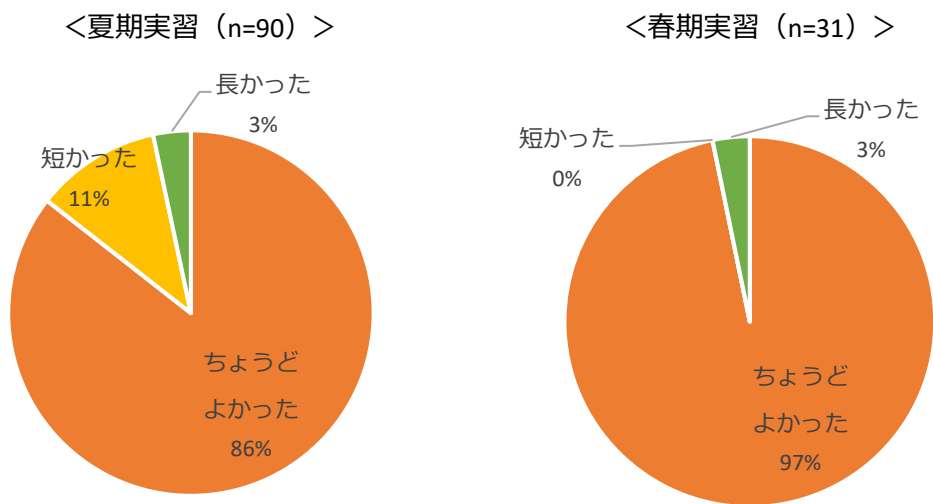


図 2 - 3 1 実習期間の適正

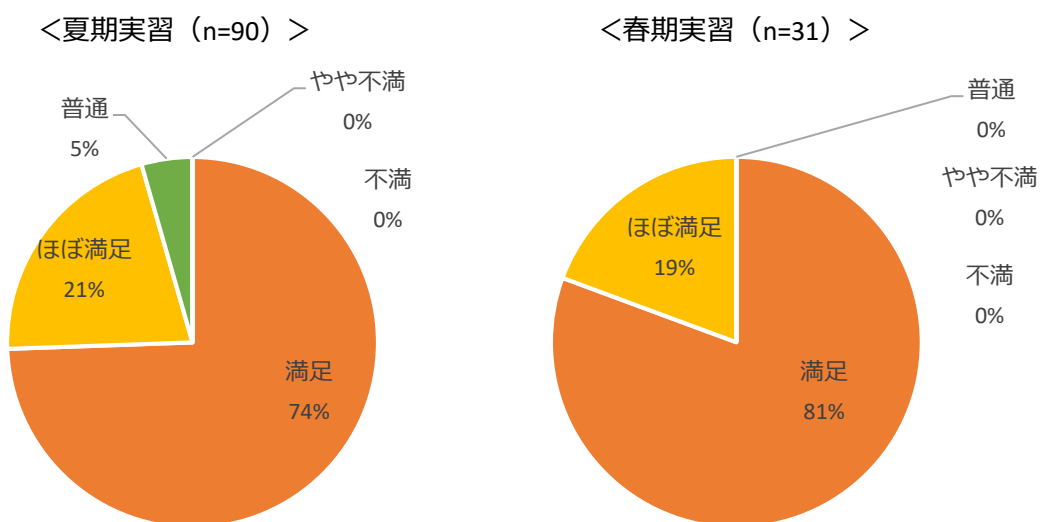


図 2 - 3 2 実習に対する満足度

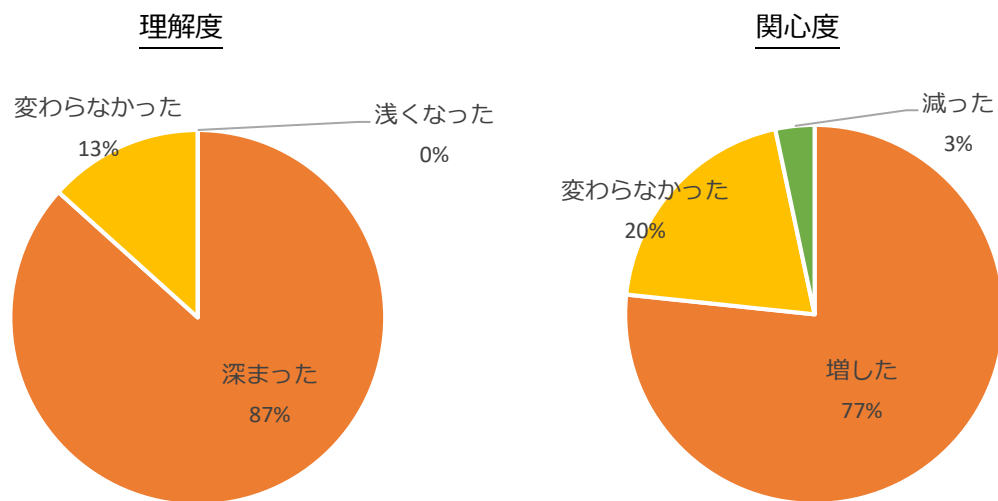


図 2 - 3 3 公衆衛生分野への理解度、関心度<夏期実習 (n=90) >

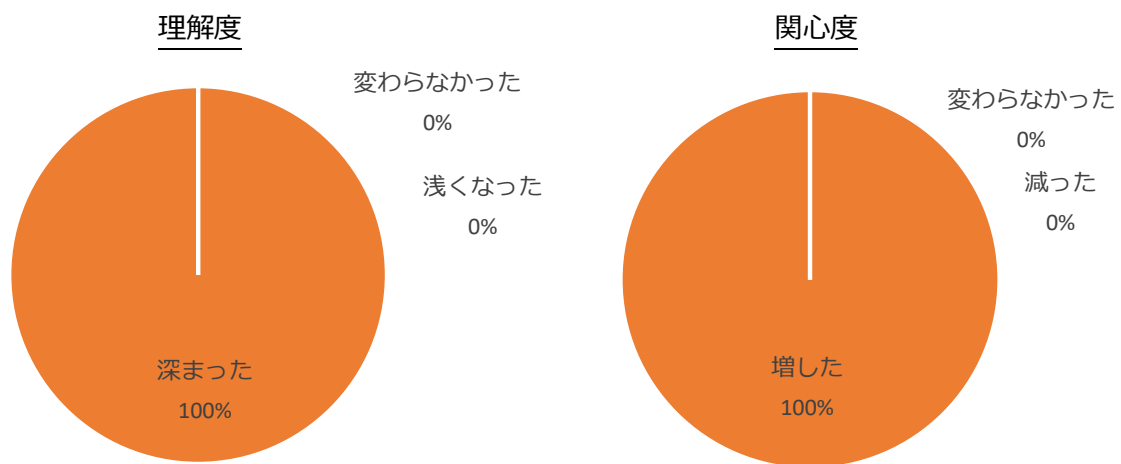


図 2 - 3 4 公衆衛生分野への理解度、関心度<春期実習 (n=31) >

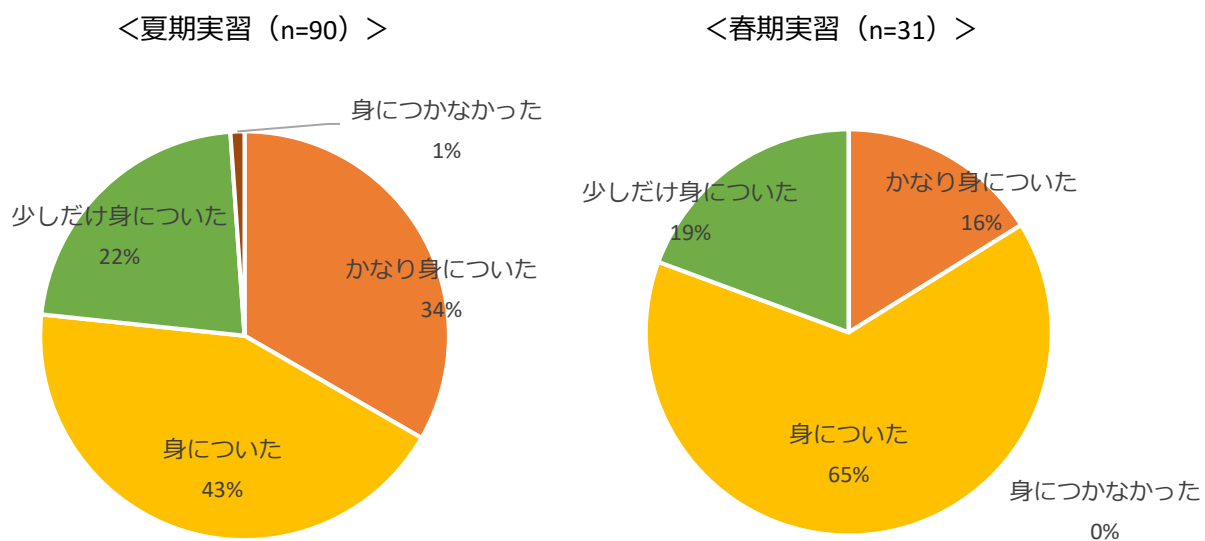


図 2 - 3 5 知識や技術の習得度合

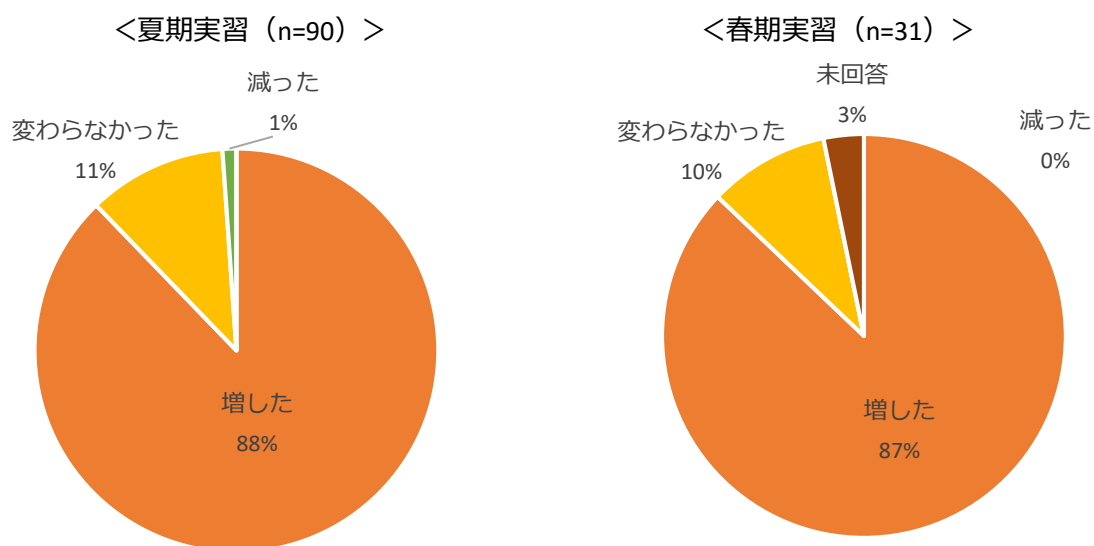


図 2 - 3 6 就職先としての関心度

実習前後における学生の意識変化を調査するために、実習前アンケートでの設問と同じ内容の設問を平成 28 年度春期実習に合わせて設定した。回収できたアンケート回答者数が実習前と実習後で同じではないため同列でグラフを示すことはできないが、回答の傾向を以下に示す。

興味のある行政区分としては、公衆衛生行政、動物福祉行政、家畜衛生行政の順に興味を持つ学生が多かった（図 2-37）。実習前アンケートにおける回答（図 2-23）と同じ傾向だった。

関心のある分野に関する設問では、感染症、食品衛生（食肉含む）、動物愛護、家畜衛生の順に関心を持つ学生が多かった（図 2-38）。上位 3 項目について実習前アンケートから変化が見られた（図 2-24）。

働きたいと思う施設に関する設問では、と畜場・食肉衛生検査所、動物愛護センター、動物園・水族館の施設に関心を持つ学生の多かった上位 3 つである（図 2-39）。実習前アンケートと比べ、と畜場・食肉衛生検査所へ興味を持つ学生数に増加の傾向が見られた（図 2-25）。

実習先に対する就職の関心度に関しては、87%の学生が「増した」と回答した。実習へ参加したことによって一定の意識変化が見られたと考えられる（図 2-40）。

実習終了後アンケートの自由記述欄「実習の感想」「実習の良かった点」「実習の悪かった点」「関心の変化」「獣医学生としての変化」への回答（記述式）結果は、参考資料 3 へ記載した。

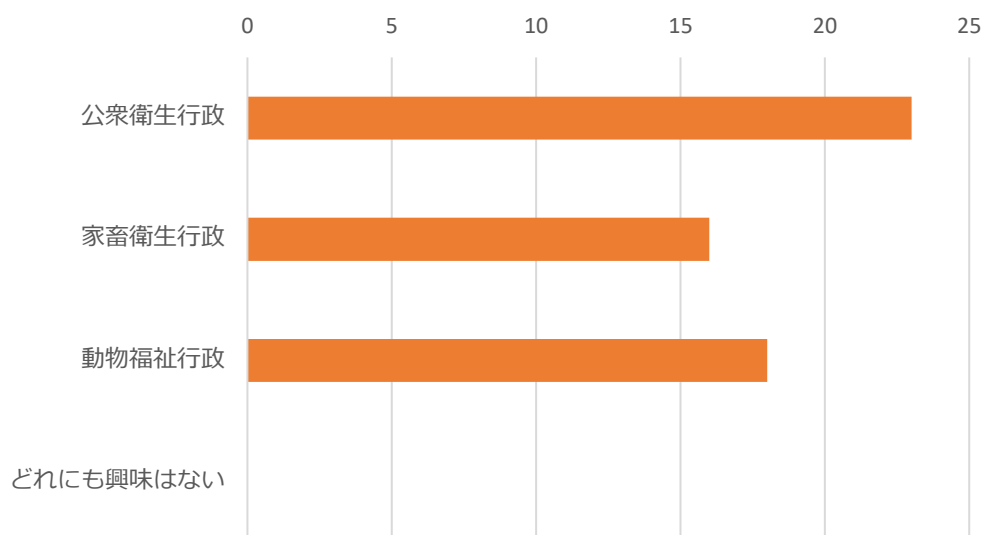


図 2 - 3 7 興味のある行政区分 (n=31) ※春期から追加した設問項目

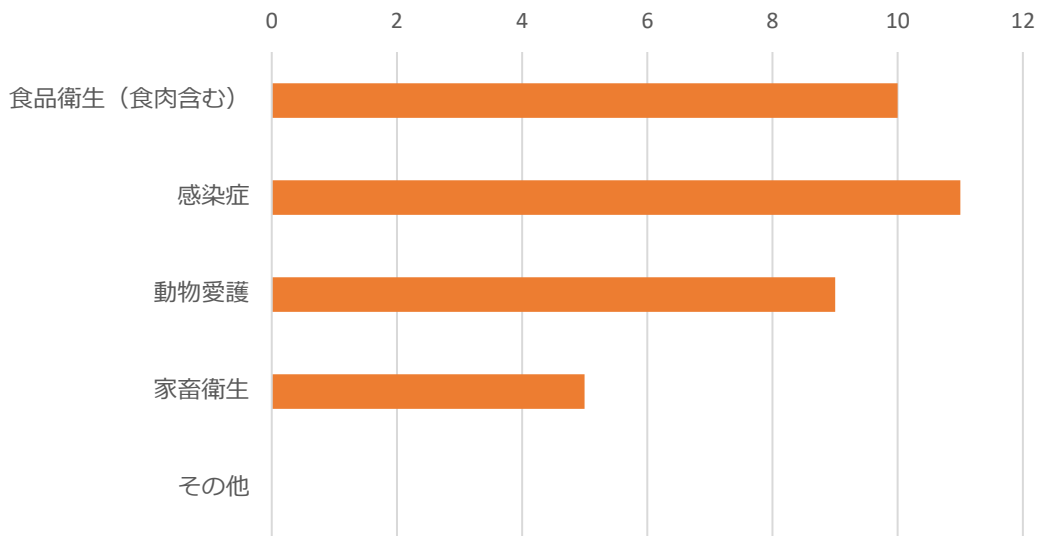


図 2 - 3 8 関心のある分野 (n=31) ※春期から追加した設問項目

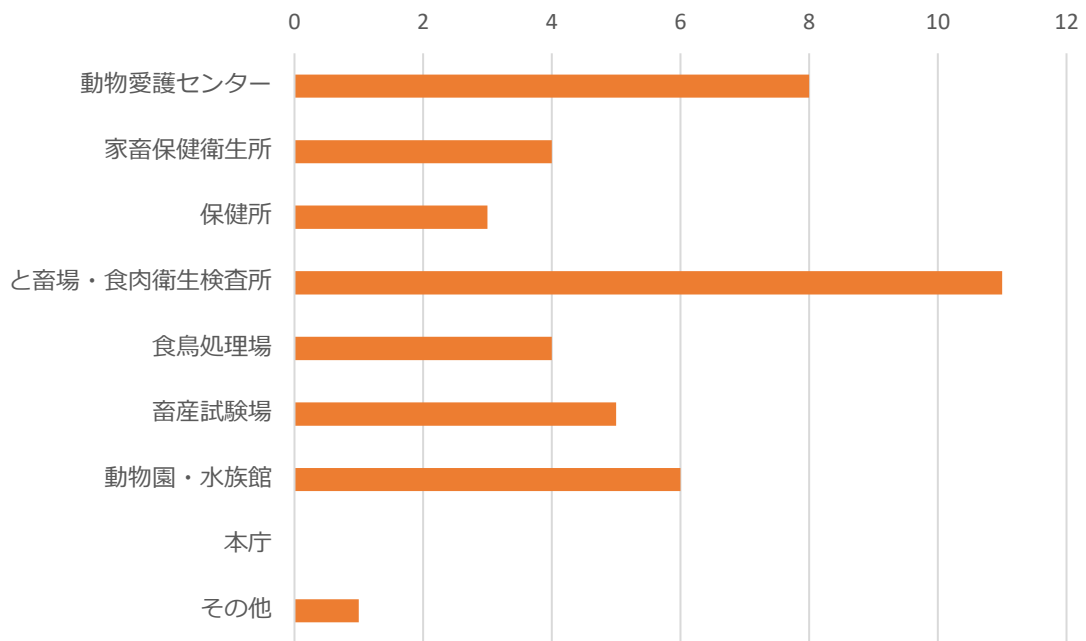


図 2 - 3 9 働きたいと思う施設 (n=31) ※春期から追加した設問項目

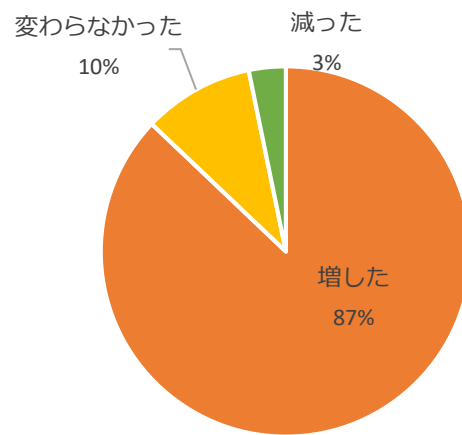


図2-40 実習先への就職関心度 (n=31) ※春期から追加した設問項目